

# あらた同窓會

令和4年 春季号

令和4年3月25日発行

鹿児島大学農学部  
あらた同窓会

電話 099-285-8537  
振替口座 02010-2-876



「かごしま健康の森公園」から見た桜島の日の出（福井泰好氏提供）

## 令和3年度会費納付のお願い

(会計年度：2021年10月1日から2022年9月30日)

鹿児島大学農学部、鹿児島農林専門学校および鹿児島高等農林学校の卒業生で組織される「鹿児島大学農学部あらた同窓会」(現在まで約2万人を超える卒業生を輩出し、それぞれが国内外で活躍しています)の運営は会員各位の通常年会費をはじめ、新入生(学生会員)が納付する入会金と会費などを主な財源としています。

本会は、農学部と協力・連携しながら、「母校の活性化や在学生への支援を行う」、「地域支部会やクラス会などに極力出席する」等に加えて、会報の発行と頒布を通じて「農学部と同窓会の近況や地域支部会、クラス会の情報などを会員にお伝えする」とともに「会員相互の交流と親睦を図っていく」こと等の活動を行っております。

開学以来、母校が110年以上築き上げてきた「あらたの輝かしい伝統」を次世代に伝承して行くために、同窓会活動に対するご理解並びに積極的な参加と協力を賜りますようお願い申し上げますとともに年会費の納入にご協力をお願い申し上げます。

年会費は2,000円です。同封の振込用紙(コンビニまたは郵便局)をご利用ください。

## 鹿児島大学農学部あらた同窓会報春季号(毎年3月25日発行)への「エッセー」へのご寄稿のお願い

例年の「あらた同窓会報・春季号」には、「支部便り」や「クラス会・グループ便り」のご寄稿をいただいております。しかし、一昨年(令和2年)から「新型コロナウイルス感染症」の影響で、全国各支部総会、クラス会・グループ活動が開催できない状況が続いており、昨年(令和3年)春季号から「エッセー」コーナーを新設して、「支部、クラス、グループ等」以外の同窓生個人の近況、思い出、同窓会活動に対して思うこと等について会員からご寄稿いただき、同窓生同士の連携を図る場を拡充することにいたしました。この新しい試みに対して、昨年春季号には多くのご寄稿をいただき好評でした。本号にも多くのご寄稿をいただき厚く御礼申し上げます。今後も、積極的なご寄稿をお願い申し上げます。

ご寄稿の原稿(ワードなどの電子ファイル)と写真(jpgなどの電子媒体)で、毎年1月末日までに事務局までにメールでお送りいただきますようお願い申し上げます。

詳細については、下記事務局までメールまたは郵便でお問い合わせください。

### 事務局案内【事務局執務体制】

執務日：月、水、金曜日 10:00~16:00

TEL・FAX：099-285-8537

E-mail: aratakai@mc2.seikyoku.ne.jp

住 所：〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-24

鹿児島大学農学部あらた同窓会

## 目 次

## 1. 会長挨拶

冬来たりなば春遠からじ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・藤田 晋輔 2

## 2. 学部長挨拶

第3期中期目標・中期計画期間の農学部の実績・・・・・・・・・・・・・・・・橋本 文雄 3

## 3. 追悼文

堀口毅先生の思い出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・榎木 直也 4

## 4. 定年退職者等挨拶

農学部学生としての1年、教員としての34年間・・・・・・・・・・・・・・・・岩井 久 5

大学教師の運命を決するもの・・・・・・・・・・・・・・・・田代 正一 7

定年退職を迎えて・・・・・・・・・・・・・・・・イブラヒム ヒッサムラドワン 8

## 5. 会員からの寄稿（エッセーなど）

「玉利池」について調べてみました・・・・・・・・・・・・・・・・富永 茂人 9

「言い訳」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・菊川 明 10

キジョランの綿毛が運ぶ思い出など・・・・・・・・・・・・・・・・中山 義治 11

20年前の20人規模の会食・・・・・・・・・・・・・・・・柳田 興平 12

『自分史』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・寺尾 国一 13

私にとってのあらた会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・臂 博美 15

佐賀あらた同窓会 支部だより・・・・・・・・・・・・・・・・貝原 洋平 16

人生の楽園・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・吉松 英明 17

社会人1年目を振り返って・・・・・・・・・・・・・・・・岩田 梨奈 18

園芸学科果樹園芸学研究室昭和59年卒業生の集まり（その2）・・・・・・・・熊本 修・早崎 吉久 18

暴動と一木支隊とオミクロン株・・・・・・・・・・・・・・・・福山 誠 19

コロナ禍の休日～風呂ビール！～・・・・・・・・福元 公成 20

## 6. 学生便り（卒業・修了にあたって）

気づいたらハマっていた部活・・・・・・・・・・・・・・・・戸高 愛海 21

4年間の振り返りと抱負・・・・・・・・・・・・・・・・花木 龍雲 22

大学生活から得た教訓・・・・・・・・・・・・・・・・寺田 竜大 22

4年間の振り返って・・・・・・・・・・・・・・・・東藤 万弥 23

大学での4年間の振り返って・・・・・・・・・・・・・・・・満尾 そら音 23

僕の夢・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・梅永 大志 24

4年間の大学生活を振り返って・・・・・・・・赤堀 円香 24

7. 恩師・同窓のお慶びならびに同窓の訃報・・・・・・・・事務局 25

8. 本部便り・・・・・・・・事務局 27

9. 役員名簿・・・・・・・・事務局 30

10. 会計報告・・・・・・・・事務局 31

11. 鹿児島大学農学部あらた同窓会会則・・・・・・・・事務局 34

12. 編集後記・・・・・・・・榎木 直也

## 会長挨拶

## 冬来たりなば春遠からじ…

鹿児島大学農学部あらた同窓会

会長 藤田 晋輔  
(林S 37卒)

この年齢になっても、反省を込めて「光陰矢の如し 少年老い易く学成り難し」の文言をなぞっている。順風満帆とは言えなかった若い時代、どのような生活をしてきたか？を問うている。この世に生を受けたのは日支事変に端を発し、本格的に泥沼化した時代【昭和14（1939）年】。そして第2次世界大戦、太平洋戦争へと突入。幼少時代は毎日防空壕避難訓練ではなく実践。これからどのようになるか。行く先は不透明、国民の心はまさしく冬。

日支事変（1937年）から8年、太平洋戦争が敗戦で終わる5ヶ月前の1945（昭和20）年4月桜が満開の横浜市立金沢国民学校に入学。『サイタサイタ サクラガサイタ』で始まる『小学国語読本』の時代。1945（昭和20）年8月15日敗戦で終戦、小学生時代半ばまで貧困の時代を過ごした。大学は将来の夢を抱き、農学部林学科（1958年入）とした。この頃になると、日本も経済的に落ち着きはじめ、経済も回復のきざし、「今や戦後ではない」と言われた時代である。そして大学院修了後、約40年学生諸君と共に教育・研究の世界に投じた。

さて、「冬来たりなば春遠からじ…」。春の気配を感じるのは桜の開花。わが国で最初の開花宣言は、沖縄のヒカンザクラ（緋寒桜：*Cerasus campanulata* (Maxim.) Masam. & S.Suzuki) である。今年も変わらず沖縄での開花は1月8日、奄美大島は9日と報道されていた。バラ科サクラ属のこの花木は沖縄と奄美大島に特に多いが、原産地を中国・台湾・沖縄と記載する図鑑もある。台湾では樹高10mを越える高木となるが、国内（本州以西）では、4m程度の亜高木である。実は1993（平成5）年第7代学長 井形昭弘先生が退官の際に寄付された19本が、大学事務局と農・獣医共通棟の間に植栽されている。30年近く経た樹高は4～5m程度で、令和4年1月はまだ蕾が固い。カンヒザクラ（寒緋桜）は同種で、ヒカンザクラの別名である。ヒガンザクラ (*Cerasus* (Miq.) · *subhirtella* · Sokolov) と間違わないように「カンヒザクラ」と呼称する。奄美のヒカンザクラの花は写真のように沖縄のそれと少し異なり、丸みを帯びた蕾（つぼみ）や中輪の一重咲きの釣鐘状で、花は1～2.5ヶ月間見られる。今年度の卒業、修士修了生諸君が卒業、終了し、来年度の新生を迎える頃、満開となり、艶やかな桜並木となる。

ところで、令和元（2019）年末に中国武漢で発生した新型コロナも収束が見えない状態が続く。新型コロナは、 $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\delta$ 、 $\gamma$ 、そして令和4年正月には、 $\omicron$ （オミクロン）株と派生し、今では12種の新株があると言う。もしかしたら、人間が夫々の新種株を収束させるのを嘲けりながら、コロナ自身も駆逐されないように人類以上の努力を重ねているかもしれない。人類もこれらに勝る努力が必要となる。

最後に、最終の学びの場である大学教育はそれぞれの専門的知識だけでなく、新たに遭遇する社会性（倫理道徳、対人関係等）に向けた総仕上げである。第3次世界大戦勃発と感じた新型コロナに振り回されたこの2年、新基軸となった「三密を避けた」状態での活動や「遠隔授業」等により実験、実習が十分学べなかったであろう。このような迷体制の中で「創造力ある学び」を養った？4年生や修士課程諸君は、卒業論文や修士論文作成時に体験したメリット、デメリットを生かし、この先100年の「社会人としての活動」を期待したい。



農・獣医共通棟前のヒカンザクラ  
(井形元学長退官記念樹、2022.2.21撮影)

**学部長挨拶****第3期中期目標・中期計画期間の農学部の実績**

農学部長 橋本 文雄

令和3年度・3月25日にご卒業・修了の皆様、誠におめでとうございます。また、鹿児島大学農学部卒業生及び在校生のあらた同窓会会員の皆様、新年を迎え、恙なくお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、この3月末で第3期中期目標・中期計画期間（平成28年度～令和3年度）の6年間の期間が終了いたします。この間の農学部の実績について、ご紹介いたします。

まず、第3期1年目の平成28年度から、現在の農業生産科学科、食料生命科学科、農林環境科学科の3学科へと改組しました。この改組により、農業生産科学科では、農作物生産や家畜生産に係る人材育成のため新たに応用植物科学コース及び畜産科学コース、活力ある農山村振興産業に係る人材育成のため新たに食料農業経済学コースを設置しました。食料生命科学科では、食分野の諸産業、焼酎・発酵食品産業に係る人材を養成するため、食品機能に関する教育を強化した食品機能科学コース、食の安全に関する教育を充実させた食環境制御科学コース、地域発酵産業に関する教育を強化した焼酎発酵・微生物科学コースを設置しました。農林環境科学科では、地域の環境・国土保全と地域資源の利用、地域防災に貢献できる人材の育成を目指すとして、山地や森林を対象とした森林科学コース、並びに、農山村や農業現場を対象とした地域環境システム学コースを設置しました。

平成27年度から地域のニーズを発掘するため、「地域連携ネットワークプロジェクト」の活動を開始しました。内容として、地域を訪問し課題を拾い上げる、人的にネットワークを形成する、応用研究を共同で推進するとして、農学部が南九州の食料基地、その拠点として教育研究を行う場としての認識を高めていただきました。具体的な内容として、1. アマミノクロウサギのタンカン園への侵入防止、2. 喜界島の長命草の調査と支援、3. 湧水町「アーモンドの丘」の調査支援、4. 肝付町での辺塚ダイダイの栽培支援、5. 鹿児島地域の秋ソバの生産支援など、現在も各取組を実施継続中です。

附属焼酎・発酵学教育研究センターに平成23年度に開講した社会人向けのリカレント教育「焼酎マイスターコース」を現在も継続中で、毎年40名の受講者があり、これまでに357名のマイスターが誕生しています。一方、附属演習林では平成19年度より社会人向けの教育プログラム「林業生産専門技術者」養成プログラムを開始し、毎年10名程度の社会人教育を継続し、これまでに200名の課程修了者を輩出しました。加えて、高隈演習林では平成26年度より「教育関係共同利用拠点」に認定され、共同利用拠点事業の実績として、年間約300名の研修者を受け入れました。昨年12月には、「職業実践力育成プログラム」の（BP）プログラムに採択され、社会人の学び直す選択肢を可視化し、大学におけるプログラムの魅力を更に向上させ、社会人の学び直しが推進されることが期待されます。附属農場ではブランディング化を推進するため、特に入来牧場を活用するとし、日本草地畜産種子協会が制度化している認証制度の内、「放牧畜産実践牧場」を申請し、昨年8月に認証を受けました。これにより入来牧場の子牛を「放牧子牛」として表示し、販売できるようになり、入来牧場は「肉用牛繁殖経営」を推進します。

大学院について、平成31年4月には農学研究科と水産学研究科を改組し、新たに農林資源科学、食品創成科学、環境フィールド科学、水産資源科学の4専攻からなる大学院農林水産学研究科修士課程を設置しました。この令和4年4月1日からダブルディグリーのプログラムがスタートします。

外部資金（科学研究費、共同研究費、受託研究費、奨学寄附金）の獲得実績について、共同獣医学部が設置された平成24年度を起点として、その後、農学部の教員一人当たりが獲得した外部資金は対平成24年度比234%の伸びとなり、獲得実績は躍進しました。

4月には新年度を迎えますが、新型コロナウイルス感染症・感染予防対策を徹底しながら、同窓会会員の皆様には、健康に過ごされますことを心よりお祈り申し上げます。

## 追悼文

## 堀口毅先生の思い出

常任幹事 樗木 直也  
(化S 58 卒)



堀口毅先生、令和3年11月4日ご逝去  
(平成21年、故西原先生米寿祝賀会での  
お写真)

昨年12月14日の午前、同窓会事務局の富永先生から、「堀口毅先生が11月4日に亡くなっていたようですが、知っていましたか。」との電話を受けました。私はもちろん、植物栄養・肥料学研究室の前教授の稲永先生を始め、うちの研究室のOBは誰も知らなかったのではないかと思います。我々OBも連絡をとらずすっかり疎遠になっていたせいもありますが、ご自分のプライベートなことに関しては恬淡としておられた堀口先生らしい気もしました。

堀口毅先生は甲府市のご出身で、昭和33年東京大学農学部農芸化学科を卒業され昭和44年に同大大学院で学位を取得後、三重大学助手を経て昭和47年に鹿児島大学農学部助教授として着任されました。平成元年に教授に昇任され、平成9年4月から平成12年3月まで農学部長を務められて退官されました。

堀口先生は小柄で痩せておられ、若いころに胸の病気をされたせいもあるのかあまり活発な方という印象はないのですが、飄々とよく動き回られていました。

額が秀でたご容貌で学生時代、頭のよさそうな先生だなという感じを持っていましたが、実際さまざまなことに対してなるほどと思うような鋭いご意見を述べられていました。戦後の民主化とともに思春期を過ごされた世代で、労働組合活動などにも理解があり、基本的にリベラルなお考えをお持ちだったように思います。研究室では学術論文はもちろんですが様々な本をよく読んでおられ、いかにも典型的な昭和の時代の知識人・インテリという感じでした。

ご退官後とくに職には就かれませんでした。県の農業試験場の試験成績検討会や土壌肥料関係者の懇親会などには、80歳になられる頃まではよく顔を出されていました。あらた同窓会の総会や卒業生・修了生祝賀会などにも、大学時代の同級生である田辺幾之助先生と一緒によく参加していただきました。まだまだお会いして飲みながらお話しする機会もあると思っていたので、平成4年に県の農業試験場で学位もなく大した実績もない研究員をしていた31歳の私を、なぜ助手に雇っていただいたのか、お聞きできなかったのが心残りです。



平成30年農学部卒業祝会で乾杯の音頭を取られる堀口先生



平成30年農学部卒業祝賀会での堀口先生(左端)

**定年退職者等挨拶****農学部学生としての1年、教員としての34年間**

副学長・理事（食料生命科学科） 岩井 久  
(農S 55卒)

昭和54年（1979年）の春、植物病理学研究室に在籍していたのは、4年生4名と3年生4名で修士課程はいなかった。研究室があったのは改装前のD棟（当時は5号館）5階の東端だった。

私以外の4年生3名の氏名と卒論テーマは以下のようなものだった。まず、内田善朗氏（元長崎県庁）が、チャてんぐす病の発病機構を調べる目的で感染組織のホルモン量を調べていた。この病気は細菌で起きる病気で、当時知覧の県茶業試験場におられた野中壽之氏（昭和36年卒）と教授の植原一雄先生が、大隅の田代町で発見したもので、感染組織に生長ホルモンが過剰産生され、春先に節間の短い新梢が叢生するという珍しい病気であった。次に西頭立志氏。彼のテーマは、そのてんぐす病細菌に寄生するファージ（細菌ウイルス）の分離だった。当時助教授だった荒井啓先生は電子顕微鏡で本細菌にファージ様粒子を捉えており、これが細菌のホルモン生産を誘発するのではないかという発想であった。しかし西頭氏は、学友会所属ジャズバンドの語り継がれる名ピアニストとしての活動が多忙で、十分な成果が得られなかった。卒業後、東京六本木にピアノライブを行う店を構えていたが、平成9年（1997年）に癌で亡くなった。もう一人は福田唯史氏（元山口県庁）。福田氏は空手部に



鹿児島大学農学部学生時代の筆者

所属。社交的な人で、彼に会いに卒業生や他学部の人達がよく研究室にやって来た。福田氏は、荒井先生が東大以来扱ってこられたサトイモモザイクウイルス（DsMV）の精製に取り組んでいた。病理研の温室の横に小さなサトイモ畑をつくり、モザイク症状の出た葉をフリーザーに蓄えていた。これをミキサーで磨砕し、有機溶媒で処理しつつ分画遠心分離を行い、約750nmのひも状のウイルス粒子を濃縮するのだが、植物に含まれる粘質物質に悩まされていた。傍で見ていた私は、この電子顕微鏡レベルの病原体はやっかいに思え、扱うのはごめん破りたかった。まさか修士課程に進学したあと、今日に至る42年間、このDsMVが属すポティウイルスの研究を生業にすることは思ってもみなかった。DsMVは数年後に外国で、感染サトイモから寄生植物ネナシカズラを経由して精製された。

私の卒論テーマは「チャ炭疽病斑から得られるファイトアレキシン様物質とその抗菌作用」というものであった。ファイトアレキシン（PA）は、宿主植物が病原菌の攻撃を受けたときに生成する抗菌物質であり、昭和29年に西ドイツのミュラーが発見命名して以来、多くの研究が行われていて、植物の病害抵抗反応に重要な役割をもっていることが解ってきていた。実は、ミュラーが提唱した頃、日本では、当の植原先生が、

広島県立農業短期大学校（現広島県立大学）において、この物質の生成に関して幾多の報告をされており、後に学位論文としてまとめられた。しかし、初期の論文が全て日本語で書かれていたためか、教科書などでは、日本での最初の発見者としての正当な評価が成されていないと思う。私が進学した頃は、全国で種々の植物から新規PAが同定されて学会誌を賑わせており、チャ葉にも形成されるに違いないので探してみても、ということであった。期待されたはずのテーマだったが、1年に満たない期間中、焦点の定まらない実験ばかりして、結局、新規物質を認めることはできなかった。炭疽病斑からエタノール抽出した粗抽出物を水に転溶、これをエーテルで振出した後に乾固し、再度少量のエタノールに溶かし、TLC（薄層クロマトグラフィー）に展開、紫外線を照射して認められた吸収スポット部分の物質を溶出して、糸状菌胞子の発芽検定に供した。TLCで得た物質には、確かに抗菌性が認められるものがあったが、紫外線吸収曲線パターンだけを頼りにPAと同定するかなり簡単な方法だったので、カフェインやカテキンなども混在していたと思う。進学した九大大学院では、助教授の先生が、HPLCや核磁気共鳴法などを駆使して構造決定まで行っておられ、なるほど世間は進んでいるものだと納得した。チャからは未だにPAが見つかっていない。

残念なことに、植原先生は、私が博士課程1年だった年に、58才の若さで肝臓ガンにより亡くなった。その病気の遠因が、若い時に、締め切った実験室に2ヶ月間泊まり込み、PA抽出に用いたクロロホルムを連続して吸入したことによる、肝機能の低下にあると聞かされた。

九州大学では、助手を含む8年間、稲作転換政策で福岡県や佐賀県で生産が急増していたダイズのウイルス病の研究を行った。このときに手がけたダイズモザイクウイルスが属すポティウイルス属（*Potyvirus*属）に関する研究が、ライフワークとなった。ポティウイルスは代表種であるジャガイモウイルスYにちなむ属名であり、西南暖地で多く見られる。種類が多く、害虫のアブラムシを介してサトウキビ、ソラマメ、テッポウユリ、パッションフルーツ、パパイヤなど地域性の高いさまざまな農作物が感染し、果実奇形や葉の萎縮などによって品質を損ねる。昭和55年からポティウイルスの研究を始め、昭和63年に鹿児島大にUターンした後は、パッションフルーツの被害が大きかった奄美地域で防除に携わり、遺伝子を解析して農場間の伝搬や潜在感染などを調査した。さらに、無病苗への植え替えを集落ぐるみで進め、多くの地域でウイルスを駆逐した。



平成30年度農学部卒業祝賀会における筆者（左端）

平成17年に先代の荒井教授から研究室を引き継いだ。幸いにその前年暮れ、学位取得後武者修行に出ていた中村正幸氏（平成10年卒）がスタッフに加わった。中村氏は、分子遺伝学的手法を駆使しながら、各種病原糸状菌の分類や細菌の病原性関連遺伝子の解明など、多くの業績を積んでいる。

私自身は、平成27年から4年間は農学部長、平成31年から3年間は理事・副学長（企画・社会連携担当）と、管理運営のエフォートが増し、研究の第一線からは退いている。南西諸島や琉球諸島は大陸や東南アジアに近いことから、島嶼伝いに亜熱帯果樹類や特用作物が盛んに導入されてきた歴史があり、今でも、全国の他地域とは様相が異なる植物病原体が潜伏している。それゆえ、この地にある鹿児島大の植物病理学研究室としては、他大学や県・国の研究機関と連携し、新規病害の拡大防止に繋がる教育・研究を続けて行かれないことを望む。

農学部の教職員の皆様、同窓会関係の皆様、学生時代の4年間ならびに教員としての34年間、本当にお世話になりました。今後の3年間は本部からエールを送ります。

## 大学教師の運命を決するもの



農業生産科学科 田代 正一

わたしが鹿児島大学農学部に赴任したのは1994（平成6）年8月1日付でした。あの鹿児島8.6水害の1年後です。当時農学部長は家畜育種学研究室の橋口勉先生でした。橋口先生から学部長室において講師昇任の辞令を受けました。このとき橋口学部長はにこやかに握手をしながらわたしの緊張をほぐされ、「これから頑張ってください」と声をかけられました。わたしが37歳のときです。最近もの忘れがひどくなり大切な人の名前が出てこないこともあるわたしですが、遠い昔の記憶が突然鮮明に蘇ってくるから不思議です。赴任当時、生物生産学科農業経営経済学講座の最年少教官（当時はまだ国家公務員でしたから教官と呼ばれていました）であり、学生との心理的距離も近く、講座に所属する学生の名前や顔をすぐ覚えることができました。当時研究室の上司であった故陣内義人先生から「君は学生の名前を覚えるのが早いね！」と褒められたものです。

その陣内先生のお陰でわたしは鹿児島大学に赴任することができ、今日無事に定年を迎えることができました。先生が「鹿大に来ないか」と声をかけてくださらなかったら、現在のわたしはないのです。当時は今と違って教員人事は公募制ではなく選考採用が普通でした。もちろん教授会での審議・承認は必要ですが、教授会にかけられる候補者は研究室の教授主導で選考されていたわけです。もし現在のような公募制であったなら、優秀な研究者がどっと応募してきて、わたしのような者が採用されることはなかったでしょう。わたしは当時博士の学位を持たず、論文数も少なかったからです。かたや陣内先生は学会の会長を経験され、立派な著書も出版されて全国的に有名な方でした。昔の大学教授は今と違って本当に偉い存在でした。最下層の助手は言葉はよくないが奴隷みたいなものです。ところがどうした訳か陣内先生がわたしに声をかけてくださったのです。まさに晴天の霹靂というものです。

当時わたしは九州大学農学部の助手でしたが、これがまた奇遇な縁によるものでした。わたしがオーバークター3年を超えて崖っぷちに立たされていたとき、偶然にも隣の研究室の助手ポストが空いてそこに採用されたのです。当該研究室に助手の候補者がいなかったため、3～4年で学位を取って出ていくという条件付きの採用でした。路頭に迷う寸前のわたしはこれで救われました。だからこのときわたしを採用してくださった川口雅正先生（九州大学名誉教授）は、陣内先生同様、わたしの人生の恩人なのです。

それまでマルクス経済学を教える研究室の院生で自称マルクス青年だったわたしが、突然近代経済学を教える研究室の助手に採用されたわけです。そんなことは通常あり得ないことです。近代経済学をまともに勉強していない院生が突然、マクロ経済学とミクロ経済学の学生演習に参加する羽目になりました。国内総生産（GDP）と国内純生産（NDP）の違いも分からず、限界費用（MC）の定義も明確に説明できない助手の誕生です。普通ではあり得ないことです。教育ではなんとか誤魔化せても研究ではどうにもなりません。そんな状況からわたしを救い出してくれたのが陣内先生だったのです。そんなわたしですが学部4年生で『資本論』を読破し、マルクス経済学原理論に関する卒業論文を書き上げましたから、それはそれでわたしの自信と誇りの基となっています。

マックス・ウェーバーは『職業としての学問』（1919年）という講演録の中で、大学教師はだれしもその就任のときの事情を回想することを好まない。なぜなら、それはたいがい不愉快な思い出だからであると書いています。また、大学教師の運命を決するものが大部分は「僥倖」（Hazard）であるとも述べています。ドイツ語のHazardはときに「サイコロ賭博」とも訳されます。わたしの場合はまさにそんな感じで、幸運なる偶然の積み重ねでした。

27年8ヶ月に及ぶ鹿児島大学での教育研究生活はわたしにとってとても充実したものでした。このような環境に恵まれたわたしは本当に幸せ者です。これまでお世話になった農学部及びあらた同窓会の関係各位の皆様、そして同僚諸氏、学生の皆さんに心から感謝の意を表したいと思います。有り難うございました。

## 定年退職を迎えて



(食料生命科学科)

イブラヒム・ヒッシュムラドワン

(農S 55卒)

私は、1993年4月より2022年3月まで、29年間、研究に携わってきました。鹿児島大学農学部には、1995年7月に講師として働き始め、2022年3月に大学院教授として教育研究生活が終わろうとしています。1990年に山口大で修士課程修了、1993年に鳥取大で博士を取得後は2年間の三重県にある企業研究所で研究主任としての勤務を経て、1995年に鹿児島大学で教員として約27年を過ごし、研究者として約32年になります。

本学に着任した当時は、主として学部生及び修士課程学生に対する機能性食品教育を任務としていました。現在本学では、食品機能学分野の多くの研究成果が創出され、本学ひいては我が国の競争力の向上に有効に活用されています。自分のキャリアを振り返って、鹿児島大学で27年間働いたことに感謝しています。私は1995年に教育研究生活としてスタートし、「いくつかの食品タンパク質の生理機能の解明」、「食品タンパク質からの治療ペプチドの開発」、「食品タンパク質を使用したドラッグデリバリーシステムの開発」などのプロジェクトに取り組みました。「食用たんぱく質を利用した薬物送達システムの開発」「食品タンパク質からの治療用ペプチドの開発」、「リゾチームとオボトランスフェリンの生理機能の謎を解き明かす」などのプロジェクトでの成果と成功は、私が最も誇りに思っていることです。2000年3月～2001年3月の1年間、アメリカのカリフォルニア工科大学 (California Polytechnic State University) の抗菌薬研究センターで卵白からの新規抗菌ペプチドの研究を発展させる幸運に恵まれました。この農学部が私に与えてくれた機会に感謝しています。また、科学研究費はいつも常に私の研究目標を達成するのに役立ってくれました。科学研究費がなければ、私はそれほど成功しなかったでしょう。このように、私の研究は、機能性ペプチド及び有用な特定の薬物標的化システムに焦点を当てています。新しいバイオテクノロジーが発達した現代において、これらの研究成果は、機能性食品や医薬品開発に熱心に取り組んでいる世界中の研究者の目に留まりました。世界中の40回以上の国際学会で招待講演を行うことで、さまざまな研究者と交流することができました。

さらに印象に残っているのは、在職中に全学内でのいろいろな国際的な活動にも参加させていただき、楽しい教員生活を過ごすことができたことです。国際交流委員会の委員そして国際交流委員長に就任して以来、外国人留学生や外国人研究員と多くの時間を共有したことは印象的です。このように色々な活動をして来ましたが、一番すばらしかった事は学生さんとの巡り合いです。指導することにより、私も多くのことを学ぶことが出来ました。27年余り食品機能化学関連分野の大学院学生の教育をお手伝いしました。この27年間に育った本学博士出身者が、現在学界、産業界で活躍している様子を折に触れて見ることができ、そういった時はとてもうれしく思います。また、鹿児島大学の先生方と苦楽を共にしたことは、とても勉強になり、今の私にとっては宝物みたいなものです。

長年にわたり恵まれた研究環境や優れた学生に囲まれて過ごせたことを関係各位に深く感謝いたします。鹿児島大学農学部の学生、教職員、そして、あらた同窓会の皆様方が、さらなる高みに向かって発展していくことを願っております。皆様に、そして鹿児島大学にとってもお世話になりましたが、最後に、鹿児島大学での約27年間に心より感謝いたします。

## 会員からの寄稿（エッセーなど）

### 「玉利池」について 調べてみました

常任副会長 富永 茂人（園S48卒）

鹿児島大学郡元キャンパスの中央付近にとりわけ緑の多い一帯があり、その中に小じんまりとした「玉利池」があります（写真1）。周囲を木々に囲まれているので

学生さんの中には知らない人もいますようですが、歴史は古く、農学部の前身「鹿児島高等農林学校」設置当時（明治42年＝1909年）からあります（写真2）。

この池はわざわざ掘ったのではなく、史料によると旧田上川の扇状地に、現在の「玉利池」よりかなり大きな湧水池があり、それが鹿児島高等農林学校設置される地域に位置していました（図1）。「玉利池」という名前は鹿児島高等農林学校初代校長・玉利喜造先生に敬意を表して呼ばれるようになったものと思われる。当時の

「玉利池」は周囲に松林がある非常に大きな湧水池（写真2）で、「鹿児島高等農林学校校友会・創立25周年記念誌、昭和9年12月25日発行）にも大正3



写真1 現在（2021年）の玉利池



写真2 大正3年頃撮影の玉利池

年と昭和9年の写真が掲載されており、「あらた75年の歩み」にも昭和10年頃の写真が掲載されています。また、鹿児島大学総合研究博物館のHP（<http://kaum.cocolog-nifty.com/blog/2014/02/post-f278.html>）にも大きな玉利池と小さな玉利池の写真があります。なお、これらの写真が掲載されている記念誌はあらた同窓会館にあります。

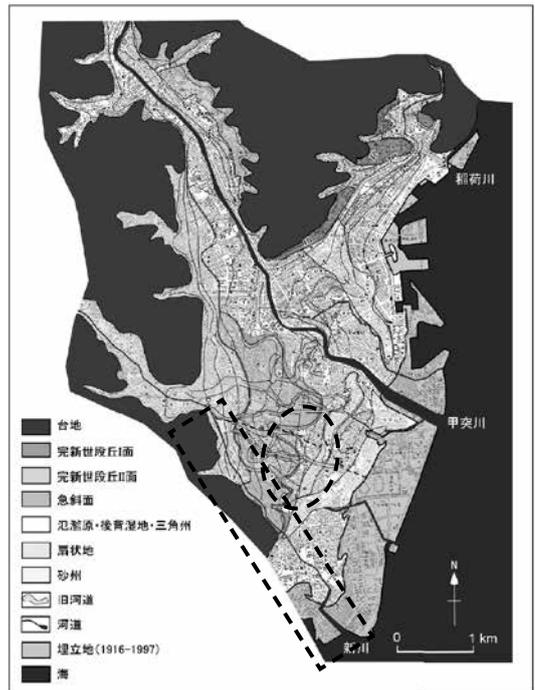


図1 甲突川低地の地形分類（森脇、2012）、点線○は鹿児島高農敷地、点線□は新川

この扇状地を形成していた田上川の歴史について調べてみると、「新川の水神碑 田上 鹿児島市」（<http://photozou.jp/photo/show/1416348/234650693>）の（『鹿児島市西部の歴史』四元幸夫著から引用 P185-186 新川の水神碑 の項）に【田上川は犬迫村の横井に源を発し、小野村、西別府村を過ぎ、田上村を経て荒田村、中村の境を流れて海に注いでいた。荒田村、中村（現在の鴨池）の境を流れていたの境川と呼んでいた。現在の鹿大農学部、騎射場から水産学部のあたりに流れ、海に注いでいた。第26代藩主島津齊宣のとき、奉行 平田平右衛門に命じて文化3年（1806）に水路変更工事が行われ、唐湊から南下して郡元に流れるようにした。新しく出来た川であるので、上流を田上川、唐湊以南の下流を「新川」と呼ぶようになった。この川によって新田400余町歩（400ヘクタール）の灌漑ができるようになった。この新しい川の長さ千五十間（1.9キロメートル）川

幅は10間（18メートル）堤防の高さ六尺（1.8メートル）馬踏み十二尺（3.6メートル）であった。この新川をつけた分岐点の田上川に架かる久保橋（現城ヶ平橋）付近の田上町二丁目14の荒田八幡西随神（写真3）境内に、高さ1.35メートル、幅45センチ、台座の横1.1メートルの水神碑（写真4）が建てられています。その正面に「水神」裏面に「新川筋凡千五十間横十間通 文化三（1806）丙寅年二月 掛郡奉行 平田平右衛門 右同地方検者 黒江工右衛門」と刻まれている。「新川」については読んで字のごとく新しい川で、もともとは現在の鹿児島大学と唐湊丘陵の間にあった唐湊周辺の沢の水を流す「小河川（しょうかせん）」でした。それを1806年（文化3年）集水域の広い田上川と運河で繋いだできた川（水路）でそれが錦江湾から物資を運ぶ運河の役割もしていたようです（表現は筆者が簡略化）と記載されています。



写真3 荒田八幡西随神



写真4 新川建設に伴って建設された水神碑（左：表面、右：裏面）

上記のような田上川の「新川」への水路変更によって田畑として利用できるようになった400haの新田の一部に「鹿児島高等農林学校」が作られ、湧水

池は後に「玉利池」と呼ばれるようになったものと推測されます。さらに、鹿児島高等農林学校の広大な水田や畑などの圃場の灌漑にも利用されていた可能性があります。

なお、水路変更によって湧水池に出水する水量が大幅に減少し（※）「玉利池」は次第に小さくなり、さらに鹿児島大学と田上川の間の開発が進み、多くの住宅等の建築によって田上川からの湧水がさらに減少したことと、昭和21年の学制改革以降「新制・鹿児島大学」に多くの学部が統合・新設されたことにより、郡元キャンパスに他学部が移転してきて多くの建物が新築されたこと等により、段々と小さくなってきたものと思われます。

この「玉利池」と「林園」の間に「あらた同窓会会館」と「あらた記念館」がある（写真5）ことは多くのあらた同窓生の周知のとおりです。



写真5 農学部開学100周年記念事業（2009年）で整備した玉利池（奥左：あらた記念館、奥右：あらた同窓会会館）

※理学部地学科がセンサーを用いて行った郡元キャンパスの地下水調査によると、理学部からあらた会館（玉利池を含む）には昔の湧水池を思わせる地下水路が見られるようです。（「鹿大キャンパスの地下構造調査」 [https://www.sci.kagoshima-u.ac.jp/oyo/prospect\\_r.html](https://www.sci.kagoshima-u.ac.jp/oyo/prospect_r.html)）。

## 言い訳

会計監査委員

菊川 明（農S48卒）

60歳を過ぎた頃から退職後の生活を考え始めた。人生百年時代、長い老後を如何に過ごすか。弓道、ウォーキングなど体



を動かすだけでなく認知症予防（ボケ防止）も必要だ。そこで、簡単には合格しないが運が良ければ合格するかもしれない資格に挑戦することにした。

社会保険労務士資格の合格率は当時7%台だった。出題形式は選択式と択一式の2つに分かれており、いずれの出題形式も選択肢の中から正しい答えを選び出す方式なので分からなくても運が良ければ正解を選べる。

62歳で受験生活が始まった。受ける以上は合格したい。最初は独学、2年目からは通学講座、そのあ

と通信講座を受講し最後は経費の問題もあり独学に戻った。勉強方法はいろいろとあるが全く初めての人は独学は難しいかもしれない。

7回目の試験が終わり自己採点では択一式が1点足りなかったが、11月に合格通知が届いた。うれしかった。

合格まで予想以上に時間がかかった理由を自分なりに考えたが、不合格になった時の「言い訳」をいつも考えていたことが要因かもしれないと思った。手元にある国語辞典によれば「言い訳」とは「自分の失敗などについて弁解すること。また、その弁解」とある。言い訳することで失敗が正当化され努力不足が認識されない。「独学だから」「仕事をしているから」「ボケ防止だから」という「言い訳」。兄からは「ボケ防止だったら合格しないほうが良いのでは」と言われた。

そして究極の「言い訳」は「歳（老年）だから」。本人は思っていなくても他人から言われる。私は不合格の通知が届くたびに妻からこの言葉で慰められた。「言い訳」にはストレスを抑制する効果もある。

逆に合格できた要因は、目的、動機が明確になったことだと思う。具体的には孫が小学校に入学したことが転機になった。社会保険労務士の試験は年1回8月の最終日曜日に実施される。このため7月8月は受験生にとって非常に重要な時期になる。孫が小学生になり休みの時しか遊びに来られなくなった時から孫と遊ぶためにも早く合格したいと思うようになった。図書館に通い徹底して過去問を解いた。同じ問題を何度も間違えたり、数字を覚えられず、ザルで水をすくっているような気持になったが合格

の瞬間をイメージして頑張った。

今回の挑戦で、目標を達成するためには①目的を明確にする（動機付け）②言い訳をしない③目標を達成した時のイメージを持つ、これらが大切だと思った。

ここまで書いてきたときに体操の内村選手の引退のニュースが届いた。印象に残っているのは東京五輪で鉄棒から落下した時の「報われない努力もあるのですね」というコメントとその1か月ぐらい後の「冷静になって考えればもう少し努力する余地があった」というコメントである。誰にも負けない努力をしてきたからこそ最初コメントが出てきたと思う。それでも、後で努力不足を認めるコメントはどこから出てくるのか驚きである。

マズローの欲求5段階説というのがある。社労士の試験にも出てくる。それによると最高の欲求は自己実現の欲求（自己目標を自身で達成したいという欲求）で無限に続くとされている。内村選手の努力の源泉はこの欲求かもしれない。

また、内村選手は引退の記者会見で、初めて鉄棒の「けあがり」ができた時の喜びを語っていた。これが内村選手の体操人生の原点かもしれないと思った。

折角資格を取得したので去年の7月社会保険労務士事務所を開設したが開店休業状態である。コロナなどの外的要因もあるが、開業の目的が明確でないことも問題だと思っている。「ぼけ防止」ではモチベーションは高まらない。かっこよく「本県農業の発展のために少しでも貢献したい」と言いたいのだが……。

## キジョランの綿毛が運ぶ 思い出など

関東あらた会元会長 中山 義治（林S45卒）

昨年12月、いつものように江戸川の堤防を散歩していたら河川敷に小さな野鳥を見つけた。野鳥はカワラヒワだった。人の気配で鳥は飛び去ったが、枯れ草の中に白く輝く物を見つけた。なんだろう、と近づいて見ると紡錘形の莢（さや）の割れ目から無数の綿毛がのぞきそれに陽が差していた。

初めてみる莢を写真に撮り帰宅して植物図鑑を調べたらガガイモ科のキジョランの莢だった。図鑑によれば長さ13～15センチの莢は「袋果」と呼ばれそ

の中に綿毛をつけた種子が入っているという。綿毛が風に乗って種子を広く散布する仕掛けである。

キジョランは、九州や関西ではふつうに見られる蔓性植物。以前からこの植物名は知っていたが不思議な名前だと感じていた。しかし綿毛を見て納得した。キジョランは、綿毛を老女の白髪に見立ててつけられた名前であり漢字で書けば「鬼女蘭」でないかと思う。もう少し勉強してみたい。

さらに図鑑によればキジョランにはアサギマダラが産卵するという。アサギマダラといえば福田晴夫先生だ。福田先生はアサギマダラの長距離移動の研究に先鞭をつけ、蝶の世界ではよく知られた方である。「原色日本蝶類生態図鑑」など蝶に関する著作も多く、養老孟子先生と一緒にテレビに出ておられたのを見たことがある。



「江戸川河川敷のキジョラン (中山氏撮影)」

私は加世田高校1年のとき、福田先生に「高校生物」を習った。この原稿を書くため図書館で借りた福田先生共著の「蝶の生態と観察」の末尾に「飼育記録の一例」として、アサギマダラの飼育記録が掲載されており、飼育場所は「加世田高校生物教室内」とある。当時からアサギマダラの研究に取り組んでおられたということだ。そう言えば授業中に学生が居眠りしているとき、福田先生のひと言「人間は4、5時間眠れば大丈夫だ」が思い出される。福田先生は、鹿児島大学農学部（害虫学専攻）卒業後高校教師をしていた。蝶の研究のことは一般の学生はもちろん、福田先生が部長を務める生物部員さえも気づいていなかった。

私は大学を出て林野庁に入り退職間際から家庭菜園を始めた。小さな畑だが畦には野菜を強風や寒風から守るための生垣を作り20数種40本余りの樹木を植えた。これも林学科卒業の由縁かも知れない。実際の野菜づくりは妻の分担で、私は趣味のカメラで野菜や樹木に発生する昆虫の撮影を楽しんでいる。無農薬栽培のせいか、畑には色んな昆虫が現れその数は40種を超える。10年ほど前に畑の常緑ヤマボウシにヤママユガ科のオオミズアオ幼虫が大発生した。長さ5～7cmの芋虫数十頭が小枝毎の新葉を食べる様子は壮観そのものだった。

昆虫を観察しているうちに二次消費者である野鳥に興味がわき写真撮影を始めた。数年前には団地内で猛禽類ツミの子育てを発見した。去年は近くの小学校のケヤキの枝の上につくられた巣で4羽のヒナが巣立った。それを撮影した写真が朝日新聞に掲載された。私は現在、環境系の専門学校の非常勤講師として、自然や生き物が大好きな学生を相手に森林科学や林業の授業を担当している。いま温暖化問題や生物多様性の保全など難題が続く。若者たちが社会に出て自然を守るプロとして大いに羽ばたくことを願う。これまでお世話になった方々に心より感謝申し上げます。

### 兵庫あらた会だより 20年前の20人規模の会食

兵庫あらた会常任幹事 柳田 興平（獣S46卒）

昨年12月の兵庫県内の新型コロナウイルスの感染者は218人で1日平均7人と沈静化の傾向にありましたので、本年は5月末に近畿・兵庫の合同総会が3年振りに開催できるのではと思っていましたが、このところの全国的な感染拡大（県内1月27日4303人）を踏まえると難しくなりそうです。

昨年は2020年1月にご逝去された故山本稔前会長（林22）の追憶を寄稿しましたが、同年9月15日には上畠義弘氏（獣36）、翌年1月31日には重本重典氏（獣38）の両元幹事もご逝去されました。

この両氏が揃って出席された最後の総会は、2002年（平14）5月25日午前11時から神戸市中央区のパレス神戸に紅一点の濱口麗智さん（畜H4）や新顔の太野垣賢治氏（工49）など19名の会員の他、母校からその年の3月まで農学部長を務められた獣医学科西中川駿教授（獣36）にご臨席いただいて華やか



平成14年度兵庫あらた会総会（集合写真）

で和やかに行われました。

総会に先立ち、恒例の特別講演では、財団法人ひょうご農村活性化公社農地調整課長の橋口正氏（園48）から公社の事業概要について説明がありました。

総会では山本稔会長の挨拶に続き、西中川先生から母校や本部同窓会の近況・情勢報告をいただいた後、前年度の会務報告・決算報告が承認されました。

また、参加者から近況報告があり、中には最近の食品表示違反問題はモラル教育にも起因するとの厳しい注文に、西中川先生が最後に釈明されるなど例年のない有意義な総会でした。



平成14年度兵庫あらた会総会（懇親会写真）

総会の後、宴会場の和室に移動し、恒例の鍋物でなく献立表付きの懐石料理に一同戸惑い気味でしたが、神沢亀貴副会長（化19・平29没）の乾杯の音頭に始まり、あちこちに車座が出来て談笑し、嶋田雅之〔現常任〕幹事（獣58）が準備した10升と所崎且幹事（畜46）差し入れの「薩摩しぶき」1升が飲み干された。

矢野欣一副会長〔現顧問〕（農26）の万歳三唱と鹿児島高等農林学校校歌合唱で3時間に亘る1次会が終了したのは午後3時半でした。

さらに、勤務の都合で昼間参加できなかった岩田幸一氏（獣45）と2次会で合流すべく阪神



平成14年度兵庫あらた会総会（懇談の様子）

元町地下街の予約していたスナックでは入りきれず、2軒に分散してカラオケを楽しみ解散したのは午後7時を過ぎていました。



平成8年度兵庫あらた会総会での上嶋氏（左奥）と重本氏（右前）

上嶋氏は、兵庫県農林獣医職として家畜保健衛生所・農林事務所等で勤務され、定年退職後は樹木医の資格も取られ、緑のパトロールにも従事された後、20年前の総会出席後に兄姉の介助のために故郷の鹿児島県大浦町で単身生活を送られ、その後、自身の通院や入院のため加古川市に戻られ、2010年の総会に出席されたのが最後でした。

重本氏は、兵庫県衛生獣医職として保健所等で環境衛生行政に従事され、定年退職後はしばらく理容美容研修にも携わっておられました。その後、体調を崩され4月の役員会には出席されていましたが、総会への出席は京都府在住の前田勲氏（農37・平29没）と55年振りの再会を果たされた2015年が最後でした。

終わりにあたり、両先輩には、いつも気安く接していただき何かとご指導・ご協力賜りましたことに心から感謝申し上げ、ひたすら御冥福をお祈り申し上げます。

## 『自分史』

岡山あらた会会長 寺尾 国一（農工S45卒）

昭和23年3月28日に宮崎県児湯郡富田村に邦夫・房子の長男として生まれる。次男裕二、三男秀三の3兄弟である。

小さい頃の思い出はあまりない。何才のころか判らないが、青島の子どもの国の遊園地、鶴戸神宮で海に何かを投げた事ぐらいが思い出される。両親は農家で忙しかったのか、小さい頃伯母の和子姉ちゃんに育てられた記憶がある。

小学生の思い出もあまりない。6年生担任の前田克郎先生には大変お世話になった。自分から希望した記憶はなく、父親の勧めで宮崎の私立日向学院中学校に受験する事になり、休みにはよく先生の家に行っていた。先生の“克”が気に入ったのか、先生から

聞いた言葉なのかは覚えていないが、後に座右の銘を聞かれると“己を知り、己に克て”と言っていたようだ。と言っても、そのような気持ちで生活していた事は全然ない。中学受験とは、時代の先端を歩いたものだ。

中学校もあまり思い出はないが、宮崎までの汽車通学は楽しかった。富田から5人ぐらいだが、高鍋、川南、都農、美々津、遠くは富島から友人と通学していた。高校同級の土工君、税田君は都農からである。地元の高校への受験を決めたのは、学力はあまり伸びず当時の一番の進学校“大宮高校”の受験は無理と悟ったからだ。

高校は地元の県立高鍋高校普通科に進学した。隣町のため、最初は汽車かバスだったが、自転車そして50ccのバイクの免許取ってからはホンダカブで通学した。今思うと、学校も良く認めてくれていたものだ。荒木君、橋口君と通っていたが、2人ともに音信不通は残念である。クラブ活動は、何もしな

かった。家で牛を飼っていたので、餌やりが日課で早く帰る必要があった為だろう。3年のクラス分けは、文系より理系と思い、理系進学クラス2組（担任：石野田先生）となった。将来の夢は何もなく、家が農家で両親は忙しく働いていたので、農業関係の仕事で何か役立てたらいいなと思っていたぐらいだった。

大学受験は、工学部までの学力はなかったので、農学部農業工学科と決めた。一期校の宮崎大学の試験は自信があったが不合格、合格の自信はなく予備校の準備をしていたら二期校の鹿児島大学に合格し、家族中大喜びでした。高鍋高校から13名程の大量合格者で、大学生活は知り合いが多かったので、逆に新しい友人はあまりできなかったのかな。同級生の坂田君は、同じ農業工学科だったが、2年生の夏に琵琶湖で亡くなった。当時の大学紛争の革マル派の活動家だ。鹿児島は縁があるもので、弟秀三は園芸学科、そして娘の佳苗ちゃんも同じ農学部食品機能化学科である。佳苗ちゃんは日向学院も後輩になる。

大学生活は、やはり一番楽しい時期だ。入学して友達と飲んだ焼酎は、嘔吐するやら体にはじんましんがでるやらで大変。大学でのコンパは、嘔吐する回数は多かったが、体質か酒に強くはならなかった。クラブ活動は、最初はギタークラブに入部したが、音楽センスがなく努力をしなかったのか、上達することなくすぐに退部した。親より授業料として仕送りしてもらった金を使って購入し、後で授業料未納がバレて親から激怒されたギター。勿体ない気持ちから、ハーモニカバンドに入部しギターの伴奏を担当する。羽生先輩（キャプテン）、折田先輩（司会者）には、指導していただき楽しい3年間を過ごせた。クラブの大学祭・パレード参加、夏休みの小学校への演奏旅行等楽しい思い出でした。

卒論は宮部助手の指導のもと米盛君と“さとうきびの脱葉機の開発”でした。月に1回ぐらい、試験材料のさとうきびを取りに行き、帰りに山川駅前で食べたかつおのたたきの

味が思い出される。授業は真面目に受け、成績も良い方だったので阿部教授には指導を良くしてもらった。当時の就職は厳しく、メーカーからの求人は少なく、ヤンマー農機への受験を勧められたが、期待に沿えず不合格。その後先輩の多い岡山の藤井製作所へ入社することになったが、当時はその後会社が行ったが、なぜかヤンマーグループとなり、ヤンマーで仕事するとは



ハーモニカバンド定期演奏会  
(上段のギターが小生)

思っていなかった。

藤井製作所では研究所に配属。当時農業機械の売れ行きは悪く、5年目には希望退職者を出す。岡山の藤井製作所、高知の協和農機、福岡の竹下鉄工の3社が合併して社名がセイレイ工業となり、ヤンマーグループの企業となった。最初の開発の仕事は、脱農機ということで建設機械の開発を担当した。開発部が32年間、最後の11年間は品質管理部で、コンバインの開発が28年間と長く、担当した機種思い出も多い。TC600は5次試作までの長い開発期間で商品化した名機、CA160は係長として工場の窓口で頑張った機種、Ee型はヤンマーの販売台数が初めてトップシェアに寄与した機種、GC160はFDS丸ハンドルの新機構を入れた機種等どれも思い出の多いコンバインである。近隣の圃場でコンバインが稼働しているのを見ると懐かしさが蘇る。最後の品質管理部では、末端の販売店、農家の声を直接聞く事ができ、商品の開発・製造の品質不良の再発防止を図り、次の後輩達にも役立つ仕事できた。大学での農業機械科専攻の学問が仕事に生かされたかどうかは解らないが、農業機械メーカーで最後まで仕事できた事は、誇りに思う。



Ee型コンバインでの稲刈り試験

27歳の時に結婚して家庭生活が始まる。会社の近くにあった洋品店に、先輩に連れられて背広を買いに行ったのがキッカである。その店に妻の叔母と母親がいて、親からつきあいが始まった。その娘が入社して開発部の配属になり、自然とつきあうようになった。会社のスキーツアーで現地に手袋を忘れたので、車を借り2人で手袋取りにドライブしたのが初デートである。結婚した時は、何処にでも旅行に連れて行くよと言っていたようだが、旅行は帰省ついで九州が多く、いつも小言をいわれていた。その反発か今年、妻は4回の海外旅行、私は1回。叔母は結婚せず、跡取りがいなかったため、子どもが小学生になる前に両養子の寺尾姓になった。2人の娘の子育ては妻任せであった。長女は出来の良い・頭の切れる娘で、高校は進学校1番の朝日高校に行ったが、なぜか大学には進学しなかつ



義母と七五三

た。今は米国ロサンゼルスに住み、夫婦2人で仕事に頑張っている。次女は小児喘息で小さい時から苦勞し、病院から小学校に通わせた。体力をつける位で始めた卓球は、名門山陽女子高でもあり高校総体選手までに育った。休みには試合観戦で、体を心配しながらも応援をしたものだ。2人ともに高校生の時に難しい時期があり、妻は学校に行かせる為、別々に2人を毎日車で送っていた。到着時間もぎりぎりでの猛スピードの運転で事故寸前は何度もあったと妻は言っていた。よく頑張ったものだ。妻には頭が上がらない。2人とも幸せになってほしい。

健康面では、大病はなく結婚前の盲腸手術とぎっくり腰での2回の入院ぐらい。風邪はよくひいて、高熱に弱く有給をもらっていた。60才過ぎてからは、高血圧・尿酸・コレステロールの薬づけ。68才の時、前立腺検査のPSA値が高くなり、針生検査で前立腺ガンが見つかったが、早期だったので大学病院の“ヨウ素125線源の永久挿入による前立腺ガン小線源療法”による手術をして現在は完治。胸のレントゲン検査で影が見つかり、胸カメラ他の精密検査で問題なしで継続観察中。足・腰の痛み、頻尿は、年齢上やむなしか。

定年退職後も少し記しておこう。妻が洋品店自営であり、家族従業員として働いてはいるが、車での配達、雑用仕事ぐらいで、すぐに店を抜け出して怒られている。地域のボランティア活動、2人の孫の育ジィ、家庭菜園、犬の散歩等忙しい毎日。朝・晩の食事づくりも楽しくやっている。妻が10年前に交通事故で、2ヶ月ほど入院・自宅療養した時から、食事担当になり、おかずレシピのコピーは、6冊のファイルとなった。小学校の放課後子ども教室のコーディネーター、学童クラブの運営委員会会長は、子どもからもらうパワーでポケ防止になっている。放課後子ども教室の和太鼓クラブには、80名程の児童が参加しており、子ども教室の練習の成果を

学区の桜まつり・敬老会に出演して地域の皆様より喜ばれている。

いろいろと記したが、今まで人生として無難に過ごせたかなと思う。趣味という趣味はなく、同窓会の定番“中学校同窓会”は、地元でないので便りもないので、親友という友が少なかった。遊びや仕事の事はあまり思い出せないが、その時その時に係り合った人の名前、顔は思い出せるものだ。そういう意味で、60才から始まった同窓会“辰の会”は、地元から離れた自分にとっては楽しみな集まりとなった。毎年の参加はできませんでしたが、参加しての語らいは貴重な思い出となりました。長い間、幹事役にはお世話になりました。初めて自分の人生をふりかえる貴重な体験もいただき有難うございました。もう一度行きたい所、もう一度会いたい友が思い出され、これからの人生で叶えたいと思う。古稀となり、男性の平均寿命81歳というが、後10年ぐらいは元気で残された人生を頑張りたい。



学区桜まつりの和太鼓出演



日向学院中学校高等学校正門前の石碑

#### 後記

4年前、最後の同窓会で幹事児玉君（福岡在住社長、鹿児島大学法学部卒）の呼びかけで記した『自分史』だが、今年になって友人より便りがあり、前述の“己を知り、己に克て”の出所が解ったので、訂正しておく。全然記憶になかったが、日向学院中学校高等学校の校訓を座右の銘としたようだ。

## 私にとってのあらた会

福岡あらた会 臂 博美（獣S62院修了）

私は、昭和62年に大学院修了、1年間の就職浪人を経て、福岡県庁に入庁し、約30年勤務し平成29年に定年退職しました。平成時代に地方公務員として過ごしました。保健福祉行



政、特に食品衛生業務に携わり、主に保健所や食肉衛生検査所に勤務しました。

担当業務である食品衛生法では「国民の健康保護の観点から残留農薬や添加物の使用基準を規定している」ため、流通生鮮食品の検査等を実施していましたが、時々これに適合していないものが発見されることがあります。この場合の対応の一環として、再発防止のため保健所から製造者もしくは生産者に対する指導を行わなければなりません。平成前半には食堂より製造業者、製造業者より生産者（農家）の方でというように、より消費者から遠い位置におられる方の食品安全性確保に関する意識は低

く、指導に苦慮したように記憶しています。指導にあたっては、日頃から当該農家の生産指導を担当されている農政部のお力もお借りしてはいたのですが、所管外の食品衛生法を根拠とした動きなので、あまり親身になっていただけなかったような気がします。このため、私の中にいつしか農政部に対する不信感がわずかながら生まれていたようです。

このような状況は日本国内至る場所で発生していたようで、平成15年食品安全基本法が施行され、「国民の健康保護が最重要であるとの基本認識の下に、農林水産物の生産から食品の販売までの各段階での必要な措置が適切に講じられ、…国民の健康への悪影響を未然に防止されるように、行わなければならない」ことが規定されることとなり、福岡県庁内部にも急遽「食品が農場で生産され、流通・加工段階を経て、消費者の口に入るまで（フードチェーン）」の各段階に関わる行政を所管している農政部・保健福祉部・県民生活部等の意見調整をする仕組みを設けることとなりました。各県同様な動きを見せる中、福岡県では食品衛生担当部署が音頭を取る事となり、たまたま在籍していた私に実務が回ってくる事となってしまいました。

発足当初、降ってわいたような話にどの部署を回しても、あまり良い顔はされず途方に暮れていました。ましてや、前述したようにかねてから不信感が芽生えていた農政部には特に冷たくされたように記憶しています。ところが、ある日、農政部のある課を訪ねた帰り際に、課長から「あんた鹿大やろ？俺も鹿大や。たまにはあらた会にも顔ば出さんね。」と声をかけていただきました。その年、同窓会に恐る恐る顔を出してみると、声をかけていただいた課長をはじめ、農政部各部署からの多数の出席

者があり気軽に話かけていただき、「県庁内ではなかなか言いにくいけどね…」と言いながら、農政部がこれまでしてきたことやこれからしようとしていることなど様々な情報をいただくことができました。逆にそれらを踏まえた上で、調整部署としての意見も立案することができ、上記の会議運営も何とかこなすことができたと思います。同窓という糸口を基に、「自分とは異なる立場にいる人の意見をしっかり聞くことにより、問題解決できる」ことを知った瞬間でした。それ以降平成後半には、後輩にもこれを伝えたいと、毎年の同窓会開催時に周辺にいる後輩にも積極的に出席を呼びかけてきたつもりです。

ところで、最近、SDGsという言葉をよく聞くようになりました。この言葉に関する自分の理解はまだまだ進んでいませんが、誰一人取り残さない「持続可能な開発目標」のためには、多くの人の多様な意見が必要であると思います。ちょっと飛躍にすぎるかもしれませんが、今にして思えば、私にとってのSDGsの芽生えは、あらた会への参加にあったのかもしれない。65歳と高齢者になりましたが、新たな芽生えを求め、今後もあらた会に出席していきたいと思っています。

と、原稿を書き終わったところで、コロナウイルス感染再拡大のため、今年度もあらた会開催中止の連絡が来ました。残念です。



## 佐賀あらた同窓会 支部だより

佐賀あらた会幹事長 貝原 洋平（生還H12卒）

佐賀あらた同窓会は、会則に基づいて総会を毎年6月頃に開催しておりましたが、令和3年度については令和2年度に引き続いて、新型コロナウイルスの影響により開催を見送ることになりました。

毎年参加を楽しみにされているみなさん方には、2年続けての中止となり大変申し訳ない思いでした。しかし、新型コロナの波には逆らえず、令和4年1月現在において新たな変異株が猛威をふるっていますが、次年度こそ無事に開催できるように日々

の感染症対策などできるところから取り組んでいきたいとの思いを強くしたところです。

一方、令和3年4月から佐賀県職員に採用された新しい会員については、大学の先輩職員と接する機会が少なく、同じ県庁で働く新しい仲間との交流の場を設けたいとの思いから、県庁の現役職員を主な対象とした「佐賀あらた現役会」を昨年に引き続き総会の代わりに開催しました。

現役会は、新型コロナの感染状況が比較的落ち着いていた令和3年11月6日（土）に佐賀市内の焼肉店で開催し、新規会員を含む8名の参加者で交流を深めました。

現役会では、初めて参加した会員を囲んで母校のことを語り合うなど、和気あいあいで和やかに一緒

の時間を共有し、現役会員の親睦を深める機会にすることができました。

新型コロナの影響がこれほど長期間に及ぶとは誰も予想しえなかったと思いますが、withコロナといった言葉が飛び交うようになり、社会は新型コロナ以前から確実な変化を迎えていると思います。新型コロナの終息を願うのはもちろんですが、佐賀あらた同窓会も新たな時代に沿った方法で継続できるように、現役会の開催などできるところから盛り上げていきたいと考えています。



2021年2月にデビューした新たな佐賀県産カンキツブランド「にじゅうまる」（「西之香」×「太田ボンカン」）

## 人生の楽園

大分あらた会 吉松 英明（農S56卒）

「人生の楽園」というTV番組が好きで、ここ10年近くほぼ欠かさず見ている。30～40代の若者が、新規に就農していろいろな野菜を近隣レストランや家庭に宅配しながら生計をたてている者や、早期退職して自分の好きなことにチャレンジする者など、いろいろな人が紹介される。多くは田舎に移り住み、自分の生活する場を変えている人が多い。いずれも現在の慌ただしい雑踏の中から抜け出し、スローライフを求めている人を紹介することの多い番組である。私がこの番組を見るようになったのは、この番組に出てくる人たちの生活に少なからず憧れていたからであろう。

現在私は第2の職場として地元の市役所で営農指導員として、週4日勤務している。主な業務として、新規就農者の支援が与えられている。彼らは北海道、関東圏、関西圏、九州内、大分県内と出身地は多岐にわたっている。また、前職もIT企業、商社、他県の企業農家でのアルバイトなど、これまた多岐にわたる経験を持っている。1年間をトレーニングファームという研修施設において座学で理論的なものを学び、実習で栽培を体験し、研修終了後にそれぞれが建設された新規ハウスで就農して栽培を開始する仕組みとなっている。彼らも夢を持って就農しているが、人生の楽園に出演する若者とはちょっと違う感じがする。彼らはスローライフを求めるよりもまずは確固たる生計を確立する必要があるから。一生懸命に農業に取り組む姿を見ると、自分のできることはしてあげようと思いつながりながら対応している。

このように新規に就農してきた人の支援、特に経

営面を重視した指導を行っているものの、実は、自分は農業をしながら、ゆっくりとした生活がしたいという欲求がある。勤務をしながら残りの3日は自宅の農地や近隣の農地(合計すると20aほど)で野菜作りをし、直販所に出荷しながら農業を楽しんでいる。今圃場にはロマネスコ、カリフローレ、芽キャベツ、サボイキャベツ、レッドキャベツなどスーパー等ではあまり見かけない野菜が収穫時期を迎えている。年に40種類程度の野菜栽培をしており、失敗をすることもありますが、年々上達していると自負している。土をいじっていると作業に夢中となり、他の煩わしさから逃れることができる。また畦畔に腰を下ろして周りの景色を眺めながら休んでいるときは幸福感に満たされる。さらに孫たちが畑の中でチョウチョを追いかけ、畝の間を走り回る姿は微笑ましく、一緒にジャガイモやニンジンを取獲する時はとても幸せな時間であり、私の楽園である。

楽園の「楽」は「らく」とも読めるし、「たのしい」とも読める。農業は決して「らく」ではないが、私は「たのしい」ものだと思う。新規就農者には現在の生活様式が人生の楽園と思えるようになるにはまだまだ時間がかかるであろうが、私にとって家族と一緒に野菜作りをする畑が人生の楽園である。これからもこの楽園で楽しく過ごせる時間を増やし、できるだけ長く続けることができればと思っている。



我が家の楽園

## 社会人1年目を振り返って

熊本あらた会 岩田 梨奈 (農生R3卒)

私が鹿児島大学を卒業し、熊本県庁に入庁してもうすぐ1年になろうとしています。卒業前に寄稿させていただいたのに続いてまた機会をいただいたので、今回は私が社会人1年目を振り返って感じたことを書こうと思います。



私は、昨年3月に農業生産科学科の食料農業経済学コースを卒業し、今は熊本県の菊池地域で普及業務にあたっています。担当品目は米・麦・大豆の土地利用型作物です。大学時代、ほぼ土を触ってこなかった私は、配属が決まった時から「いったい何をするのか」、「私より農家さんの方が知識も豊富だし、教えることなんてないのでは」ととても緊張しました。

実際に入庁してみると、周りの先輩方が優しく教えてくださり、研修も豊富で日々新しい学びがあります。また、専門である土地利用型作物にとらわれず、果樹農家や酪農家でも研修をさせていただきました。酪農家での研修では、ちょうど出産に立ち会うことができ、座学での研修とはまた違った貴重な体験をすることができました。

大学を卒業するとき、「これで勉強は終わりだ」とばかり思っていました。きっと勉強は終わっても学びは一生続いていくのだと最近実感しています。まだまだ知識・経験不足ですが、今後も仕事を通して新しいことをどんどん学んでいきたいです。また、最近ではコロナの感染状況が再びひっ迫しており、業務においても、より柔軟な対応が求められています。今後も自分にできることを探しながら業務に取り組みたいです。

最後になりますが、今回このような場をいただけて嬉しく思います。今年度は所用で出身ゼミにお邪魔する機会もあり、大変お世話になりました。もうすぐ社会人2年目に突入しますが、これからも支えていただいた方々に感謝の気持ちを忘れず、毎日笑顔で過ごしたいと思います。

## 園芸学科果樹園芸学研究室 昭和59年卒業生の集まり(その2)

鹿児島あらた会・福岡あらた会  
熊本 修・早崎 吉久 (園S59卒)

令和元年11月に福岡で還暦同窓会を行い、令和2年は還暦を迎える山崎さんと新堂さんのために同窓会を開催予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で延期。満を持して令和3年に還暦を迎えた齋藤さんと早崎さんと永井さんも併せた5名のために、2回目の還暦同窓会を開催しました。

場所は学生の頃、足繁く通っていた騎射場の老舗飲み屋。新型コロナウイルスの感染者数が減少し、オミクロン株による感染者が増える前の令和3年11月20日に実施できました。早崎さんの絶妙な段取りに感謝。さらに、我々の恩師である富永名誉教授も二つ返事で参加いただきました。

作業後に飲むビールや焼酎の美味しかったこと、そして恩師の岩堀先生や富永先生方との語らいの楽しかったことなど様々な思い出がよみがえってきました。そして、早崎さんの粋な計らいにより学生の

頃に当番制で書いていた伝説の「作業日誌」が再び登場です。ここで作業日誌のエピソードを一つ紹介します。

昭和58年6月22日 天気：とっても晴れ

参加者：岩堀先生、富永先生、4年生のいつものメンバーと一部の3年生

場所：唐湊果樹園

内容：齋藤さんの卒論のためポンカンへのフィガロン散布試験

所見：とっても暑い日なのでみんな作業中にビヤガーデンのことばかり考えてました。そして念願のビヤガーデンでの出来事。。。中略

突然永井さんが「新堂君は頭切ったら似合うのね」と発言すると熊本が「おう似合う似合う。スポーツカットにしようぜ」。すかさず山崎さんが「みんな気合いば入れんばいかん。おいが坊主になったらみんな切れよ」。翌日早崎さんを除いてみんな坊主に。そこへ富永先生が「早崎君は切らないの」と一言。そして全員涼しい頭に変

身。これには永井さんも啞然。ここはジョーダンも言えない教室ですね。改めてみんなの仲間意識がすごい。。。

今思えば若気の至りとはいえ無茶なこともたくさんやりました。富永先生も30代と若く、作業も卒論も欧文演習もそして飲み会も全力投球でした。今では全員還暦を過ぎ（富永先生は古希過ぎですが）ましたが、まだまだ元気です。次の同窓会は東京で開催し、岩堀先生と一緒に飲もうと再会を約束しながら帰路につきました。やはり同窓会は最高です!!



果樹園芸学研究室S59年卒の集り（2021年11月20日）

## 暴動と一木支隊とオミクロン株

鹿児島あらた会 福山 誠（林S63卒）  
国際航業株式会社・海外コンサルティング部

2020年2月頃から世界的に流行した新型コロナウイルスの影響で暫く海外出張を見合わせていたが、昨年10月末から1年7ヶ月ぶりにソロモン諸島国に出掛ける機会があった。現地到着後すぐに強制隔離施設に入所させられ、2週間過ごした。その後、本来の目的である持続的森林資源管理プロジェクトでの業務に4週間従事する予定だった。

業務を始めて2週間が経過した頃、首都ホニアラから約2時間の距離にあるガダルカナル島の東部の村に泊りがけで活動していたところ、翌日にホニアラで退役軍人によるデモが行われるという情報に接した。当初大した危機感を抱かなかったが、その後デモの主体がマライタ島出身者の集団で、目的が首相退陣を求めるものであるといった情報が交錯し、次第に緊張感が高まっていった。その背景には、現政権が一昨年台湾との国交断絶を強行し、中国と国交を結んだことで、伝統的に台湾との結びつきが強かったマライタ島の出身者及び住民から強い反発があったことがある（このことから、人口70万人足らずの小国が、大国の思惑に翻弄されるという厳しい現実が垣間見える）。それ以外にも、コロナ禍の影響として経済不振や失業率の高止まりなども指摘されており、これらが相まって現政権の失政という批判につながっていた。

デモは11月24日に始まり、翌25日には暴徒化した群衆により、主に中国出身者が経営する商店が略奪・放火の被害に遭い、特にチャイナタウンで大きな被害が出たとのことだった。我々のチームは元々25日まで村に滞在予定であったため、ダメもとで拠

点のあるホニアラへ戻ることにした。その際、村長はじめ多数の村人が我々の身を案じ、危険なので村に留まるように何度も促されたことが印象に残っている。結局その日は、ホニアラの入口にあたる空港近くの警察署に向いて情報収集するも、市街地方面には黒煙が立ち上っているのが確認されるなど、夕方近くとも市中の状況が思わしくなかったため村へ引き返すこととした。



（暴動からの退避中に出会った一木支隊の鎮魂碑）

翌26日は朝6時頃村を発ち、再度ホニアラへ向かった。前日立ち寄った警察署で署長と面会し、情報収集や市内のホテルまでの警護依頼などの交渉を行ったが、そのうち暴徒が首相私邸に押し寄せ、放火したとの情報が寄せられ、警官隊が完全武装して慌ただしく飛び出して行く様子を目の当たりにした。それにより警察署の防備が手薄になり、暴徒の攻撃に晒される危険性を感じ取り、近くの空港へと移動した。その後、市内から押し出されてきた暴徒が空港を目がけて押し寄せて来るという切迫した雰囲気になったため退避を決断。再度村へ戻る選択肢もあったが、2時間近くかかるため、同じチームのローカルスタッフが卒業した近くの中学校の寮に投宿させてもらうことになった。その校内で偶然、日本の記念碑のようなものを目にし、近寄ってみると「一木支隊鎮魂碑」と刻んであることが確認でき

た。恥を忍んで言えば、一木支隊のことを全く知らなかったものの拝礼させて頂いた。後で調べてみると、一木清直大佐率いる約900名から成る同支隊は、1942年にこの近辺で実行されたガダルカナル島奪回作戦において、1万人以上の米軍に挑み、あえなく全滅した事実を知った。偶然とはいえ、今回のデモ・暴動がなければこの鎮魂碑に接することもなく、また一木支隊のことを知る機会もなかったかも知れないと思うと、非常に感慨深い思いがした。日本とアジア・太平洋諸国の間には戦時中の不幸な歴史があるものの、自分の経験で言えば、現在ではどの国に行っても日本人というだけで歓迎される現実がある。これは戦時中、一木支隊のようにはるばる遠方の日本から派遣され彼の地で散って行かれた多くの方々、また戦後、様々な形で世界の平和・発展にご尽力されて来られた先人のお陰であることを改めて胸に刻んだ次第である。

暴動は26日に鎮圧され、27日の早朝にホニアラのホテルに無事帰還することができたが、実はその後、もう一つのトラブルに巻き込まれることとなった。暴動再発に備え、1週間滞在を短縮して帰国を決めた11月下旬、日本への帰路の航空券の予約をし

ようと調整を始めたところ、直前まで空席があった便がことごとく予約が入らない状態となった。後で知ったことだが、オミクロン株に対する水際対策として我が国政府が日本人も対象とした入国制限を始めたためである。幸い何とかオーストラリア及び中東のドーハ（カタール）経由の航空券を確保でき、3日ばかり（搭乗時間だけで29時間）の遠回りで帰国できた。個人的には、今回の非常事態時において、政府が日本人も含めた入国制限を即座に打ち出したことに対しては英断であったと評価するが、まさか自分がこのあおりを受けるとは想定外であった。

今回の出張を振り返ると、トラブル続きではあったものの、リスクマネジメントという観点からは多くの教訓を得ることができた。安全第一で行動することが常道であるが、一つの決断の誤りが命取りになることを改めて身をもって知ることとなった。これからもソロモンを含め海外出張する機会があると思うが、一日も早くコロナ禍が収束し、また治安状況も安定した中で仕事に邁進できるような世界情勢となることを祈るばかりである。

## コロナ禍の休日～風呂ビール！～

鹿児島あらた会 福元 公成（生産H20卒）

同級生の皆さんご無沙汰しております。お元気に過ごされていますでしょうか。私は鹿児島で元気に過ごしております。県外に住んでいる皆さん、鹿児島に来られる際にはぜひお声がけください。大学時代によく行った騎射場で飲んで思ひ出話に花を咲かせましょう！もちろん、県内に住んでいる皆さんも！



前置きが少々長くなりましたが、皆さんコロナ禍どのようにお過ごしでしょうか。コロナ禍前であれば自由に旅行や、友人と飲みに行けたりしていたと思います。私も週末になれば友人と天文館や中央駅に飲みに行き、宿も決めずにフラッと馬刺し食べたいなと思ひ熊本へ、中津唐揚げ食べたいなと大分へ、小倉競馬場に行きたいと北九州へと宿も決めず

にフラッと出掛けることもあったのですが、2年前からどこでコロナに感染するか分からないということでもなかなか飲みにも旅行にも行けなくなりました。そんな息苦しい生活を強いられる中、お家時間を楽しく過ごそうということでオンライン飲み会など色々ありますが、私が見つけた小さな楽しみが「風呂ビール！」です。

きっかけはテレビの旅番組で露天風呂に浸かりながらお酒を飲んでるシーンを見たというありきたりなものです。風景は楽しめないが風呂で酒なら飲めるなと思ひやってみました。

結果として思ったのが、風呂あがりのビールもいいが風呂の中のビール最高だなと！笑

温かい風呂に浸かりリラックスしながら冷たいビールを流し込む！美味い！つまみを食べてまたビールをひと口、ごくり。最高！笑

ここが露天風呂で月見酒だったらと想いを馳せつつ…第六波が収束して日常が落ち着いてきたら温泉宿を予約して露天風呂で風景を楽しみつつお酒を飲むんだ！と思ひつつ…我慢の多い日常のひと息。とりあえず、今度は昼から「風呂ビール」やってみます。笑

寄稿の依頼を受けて、何を書こうかなと、コロナが流行してからのこの2年、特別な何かが無いなと

思い、日常で変わったことはなんだろうと考えながら書きました。アホなことやってる卒業生がいるな、とクスリとしてくれれば幸いです。皆さんコロナが収束したら何かやりたいことありますか？好き

なことが自由にできるようになるまではとりあえず今は風呂ビールでもして、お家時間を楽しんでみてはいかがでしょう？ただし、飲み過ぎは厳禁ですよ。笑

## 学 生 便 り（卒業・修了にあたって）



### 気づいたらハマっていた部活

農業生産科学科 畜産科学コース

家畜育種学研究室 学部4年

戸高 愛海

私は4年間の大学生活で様々な経験や出会いを通じて多くの思い出を作ることが出来ましたが、特にジャズバンド部での活動が一番記憶に残っています。

私は大学で新しいことを始めようと思い、元々楽器に興味があったこともあり入部しました。入部する際には全ての楽器を体験させてもらい、特に楽しく感じたドラムを選びました。ジャズバンド部では年2回ライブがあり、このライブに向け週3回の練習があります。ドラムはリズムを支える重要な役割を持ちますが、私の失敗で演奏を止めることが多くあり、初めは部活に行くのが怖かったです。でも、1年生の頃は講義の空き時間に先輩からつきっきりで教えていただき、克服できました。

2年生の時には年2回のライブに加え、他のサー

クルとの合同バンドや学祭などで難しい曲を演奏することが多くなっていました。夏に「Charlie the Whale」という曲をしたのですが、新しい演奏方法やドラムが目立つ部分もあり練習しがいのある曲で、曲の雰囲気と自分が成長できた曲ということで今では一番好きな曲となっています。また、他にも合同バンドではロック系の曲、冬のライブではソロ演奏のある楽曲に挑戦しました。その分練習量も増え、気づいたら時間があれば毎日遅くまで練習していました。おかげで家の電気代や光熱費が驚くほど低くなりましたが、ライブでは大きな達成感が得られました。

ジャズバンド部は忙しかったのですがとても充実していました。しかし、充実できたのも私を支えてくれた先輩や同期、後輩のおかげでした。3年生の時にはイベントもほぼ中止となり悲しかったですが、久しぶりにみんなに会えると元気がもらえました。そう思える仲間に加え、ジャズバンド部に入って本当に良かったと感じます。私はこれから大学院へ行きますが、そこでも充実した日々を送れるように頑張りたいです。





## 4年間の振り返りと抱負

農業生産科学科 応用植物科学コース

害虫学研究室 学部4年

花木 龍雲

4年間の大学生活を終え、支えてくれた全ての人に感謝したいです。この4年間で振り返ってみると様々なことがありました。

慣れない一人暮らしで、右往左往する自分を救ってくれた友人。大学に入ってから多くの友人が出来ました。毎日のように友人と共に通った温泉、深夜まで続く飲み会と全てのシーンがかけがえのない時間であったと感じます。

また、13年間続けてきた硬式野球も大学で区切りを付けました。今までの自分を野球無しでは語れないくらい、この13年間打ち込んできました。「凡事徹底」当たり前を当たり前に行う。これは恩師である監督が常々口にしていた言葉です。一見簡単ですが、突き詰めるほどその難しさと重要性に気付かされます。野球を通して学んだ忍耐力や継続力、礼儀など忘れずにこれからも過ごしていきたいです。

さらにはオンライン等を活用した社会環境の変容。未曾有のウイルスの蔓延により今までの既成概念が壊されました。そんな状況下での就職活動を通して、慣習に囚われる事なく客観的視点で物事を判断出来る人材が社会に必要とされることを実感しました。色々なことに挑戦する事で今まで見えていなかったものが見えたり、新たな発見に繋がります。チャレンジ精神を忘れずにこれからも生きていきたいです。

今年からは新社会人となり、小学校からの16年間の学生生活を卒業します。今後はこれまで以上に自分の発言や行動に責任が伴います。その反面自分の意思で自由に行動できる場面も増えてくると思いますが、自分自身に甘えることなく責任感のある社会人を目指したいです。そして自分の仕事を通して、活気ある街づくりに貢献し、ひとりでも多くの人を笑顔に出来るよう精進していきたいです。



## 大学生活から得た教訓

食料生命科学科 食品機能学コース

生命高分子化学研究室 学部4年

寺田 竜大

私は大学に入学してサークルや部活動に所属しなかったため、この大学4年間で自分から夢中になって取り組んだことがほとんどない。この大学4年間で振り返ってみると、平日は学校が終わるとほとんど毎日バイトに行き、平凡な日々を過ごしていたと思う。

大学2年生の時に高校で一緒に野球をしていた友人に軟式野球部に入らないかと誘われたが、少しやりたいという気持ちはあったものの2年生から入ってももう遅いかなと考えていたら、ますます入りづらくなり結局軟式野球部にも入部しなかった。この時野球部に入っていたら充実した大学生活が送れたのではないかと非常に後悔している。

4年間で何もしてこなかったため、就職活動のガクチカを考えるとときにはとてもこずった。1年生からずっと続けてきたバイトの話を何とかそれっぽく書いて、無事に内定はもらったが、自分の4年間の大学生活の中身は空っぽだったと就職活動しながら気づいた。

そこで何でもいいから始めようと思い、3年生の5月あたりから毎日腕立て伏せをすることにした。最近、4年間バイトをして貯めたお金で、ダンベルとプロテインを購入して本格的に筋トレを始めた。

また、もう野球はやらないと思っていたが、家でyoutubeを見てみると野球の動画が出てくるとついつい見てしまい、今でも一番面白くて夢中になれることは野球しかないのかなと思うことがある。そのため、就職先にソフトボールチームがあるので、入社した後は野球でないがソフトボールに挑戦したいと思う。

今まで自ら挑戦してこなかったため、社会人になったら失敗を恐れず自分からいろんなことに挑戦したい。大学生活でしかできないことがあると思うので、今大学で夢中になれることがないと思っている人には小さなことでも夢中になれることを探してほしい。



## 4年間を振り返って

食料生命科学科 食環境制御科学コース  
食品保蔵学研究室 学部4年

東藤 万弥

私の大学4年間は、暇なときが思い浮かばないほど密度の濃い時間でした。私は、大学進学と同時に、地元である福岡から鹿児島にやってきました。初めての一人暮らし、自分で自由に考える履修登録、サークル活動、アルバイト、何もかもが新鮮でキラキラしていたことを覚えています。そんな懐かしい気持ちを思い出しながら、4年間を振り返りたいと思います。

“この4年間を通して学んだことはなんだろう?”と考えたとき、真っ先に浮かんだことは、多くの人と関わりをもつことの大切さです。大学は良くも悪くも個人プレーなので、受け身では何も始まりません。もともと考えるよりも行動してしまう性格であるため、飲食店やアパレルなどのいろんなアルバイトにチャレンジしてみたり、サークル活動に参加してみたり、積極的に人と関わっていきました。私を支えてくれる大切な友人、自分とは全く違う考え方や、価値観を持っている方、驚くような経験をしてきた方、他にもいろんな人と出会いました。この出会いのおかげで、自分の未熟さや間違いに気づき正したり、考え方や価値観そのものが変化したり、いろんなことを吸収することができました。

この人との出会いが、私自身を、人生をより豊かにしてくれたのだと、4年間を振り返って、強く思います。4年前の幼かった私よりも、うんと成長することができたのではないかと思います。鹿児島大学に来て良かった、そう心から思います。春からは新社会人です。この先、数えられないほどの人と出会います。また、自ら出会いを求めていく機会ももっと増えていくと思います。そんなときも積極的に関わりあいをもち、自分自身を豊かに、そして私と関わってくれた人を豊かにできるような、そんな人になりたいと思います。



## 大学での4年間を振り返って

農林環境科学科 地域環境システム学コース  
農地工学研究室 学部4年

満尾 そら音

卒業まで残り2ヶ月を切り、これまでの大学生活を振り返るとあっという間の4年間でその一つひとつが充実した日々を送ることができたのかなと思います。新たな場所でアルバイトや大学生活を行える恵まれた環境を楽しむ一方で、上手くやっていたのかという不安を抱えながら過ごしていました。特にコロナ禍によって日常生活が日々変わるなかで新しい生活様式についていくことで一杯一杯だったことを思い出します。

入学した頃は目の前のことにながむしゃらで、将来のことや、やりたいことを自分で思い描けていませんでした。私は、大学2年生の時に南大隅町での農山村フィールドワークに参加したことで興味があることが少しずつわかりました。農山村地域を未来につなげようと活動しているお年寄りの方と交流をした際、自分達が生まれ育った地域に対して恩返しをしたいという暖かい心に、私は心を揺さぶられました。仕事を終えた後もやりたいことに果敢に挑む姿をみて、失敗ばかりを恐れていた自分を見つめ直しました。

卒業論文や就職活動では、人前で思い通りに自分を表現出来ない悔しさや自分の準備してきた成果を発揮できないことばかりでした。そのたびにもっと上手くなりたいと思えたのは南大隅で地域の方が熱意を持って果敢に取り組む姿をみて素敵だと思ったからです。失敗ばかりで立ち止まることも多かった学生生活ですが、共に挑み続ける仲間がいたことも私の励みになりました。たくさんの人と出会い、自分を発見できたこの4年間は人生の実りになりました。これから先をまだはっきりと思い描くことはできていないけれど、新たな出会いの中で一步一步、歩んでいきたいと思っています。



## 僕の夢

農林環境科学科 森林科学コース

森林計画学研究室 学部4年

梅永 大志

あっという間だった。突風がすぎる様に過ぎた4年間。ただひたすらに楽しい日々だった。鹿児島大学に来て本当に良かったと僕は思う。

僕は趣味で釣りをしている。海が近い大学に行きたい。最初はそれだけで出身地である福岡から鹿大に来た。釣りサークルに入り世界が広がった。休みの日も講義がある日もひたすらに仲間と共に海へ向かい魚を釣る。その日常がたまらなく幸せだった。正直、1年の頃は森林のことなんてまったく興味がなかった。まさか自分が森林に関わる仕事をするなんて夢にも思っていなかった。

この気持ちを変えたのは、九州で相次ぐ豪雨、そして、それに伴う洪水災害の発生だったと今では思う。農林環境科学科は2年生の頃から森林に関する専門的なことを学ぶのだが、とある講義で森林がもつ水源涵養機能によって森林土壌が雨水を貯め、洪水を緩和していることを知り、僕は20歳ながら衝撃を受けた。森林が地球環境、そして人々の生活に密接に関わっていたからだ。それと同時に林業従事者の高齢化、担い手不足により森林が荒れ、森林の通常持っている機能が徐々に失われていることも知った。幼少期の頃から、何かしら自然に関わられて、やり甲斐のある仕事をしたいと考えていたため、理由はどうであれ、鹿大の農林環境科学科に来たことを運命に感じた。

そして月日が流れ春から僕は宮崎県森林組合連合会という場所で働かせて頂く。素材生産事業から、森林整備まで様々な事を経験して、宮崎の、いや、日本の森林の未来を担っていく人材になることをこの場を借りて誓わせていただく。「日本で森林に関わる仕事を子供たちの憧れの仕事にする」僕の大きな夢が実現するのはそう遠くない未来かもしれない。



## 4年間の大学生活を振り返って

国際食料資源学特別コース

蔬菜園芸学研究室 学部4年

赤堀 円香

私は国際コースに入学し4年間の大学生活を過ごしてきましたが、このコースを一言で表すとパワフルです。その一部を振り返っていききたいと思います。

まずは、農学部と水産学部の両学部の授業を受けることができたことです。農学部生の私が水産愛に溢れている水産学部生と学ぶことができたのは何より新鮮で本当に貴重な経験でした。ただ最初は周りに比べて水産の知識が皆無で、授業中に先生に「マンボウは海のどのくらいにいるか知ってるよね？」と指されて水産学部生100人以上の前で「深層あたりです」と答えて先生と周りがドン引きした空気は今でもハッキリと覚えているし水族館のマンボウを見ると必ずそれを思い出します。なので農学部の国際コースの皆さんは「マンボウは表層に生息している」これはマジで覚えておくといいです。

また、2年生でのフィリピン研修は私にとってはとても大きな経験でした。私は海外が初めてだったので何もかもが刺激的で2週間はとてもあっという間でしたが、自分の視野が広がったので本当に行くことができて良かったと思います。

他にも、英語での授業やディスカッション、農と水産で両方ある実習、10分の休み時間の間で郡元キャンパスと水産学部キャンパスを移動することなど、国際コースはなかなかハードなこと？がありましたが、その都度みんなで愚痴ったり（ごめんなさい）爆笑したりして過ごしたことは今でも良い思い出です。

こうやって4年間の大学生活を振り返ると、鹿児島大学国際コースでなければ経験することができなかった事がほとんどで、ここに入学して本当に良かったと思います。もうすぐその大学を卒業すると思うととても寂しいですが、いつかパワフルな仲間と再会したときに負けていないように社会人でも頑張っていきたいです。

## 恩師・同窓のお慶びならびに同窓の訃報

- 【定年退職】** 中西 良孝 令和4年3月31日  
 (農業生産科学科 畜産科学コース・家畜管理学分野 教授)  
 田代 正一 令和4年3月31日  
 (農業生産科学科 食料農業経済学コース・農業経済学分野 教授)  
 イブラヒム・ヒッサムラドワン 令和4年3月31日  
 (食料生命科学科 食品機能科学コース・食品化学分野 教授)  
 岩井 久 (副学長・理事) 令和4年3月31日  
 (食料生命科学科 食環境制御科学コース・植物病理学分野 教授)  
 岡 勝 令和4年3月31日  
 (農学部附属演習林 教授)
- 【昇任】** なし  
**【新任】** なし  
**【受賞】** 前田 芳實 (畜S42卒) 瑞宝中綬章 秋の叙勲 (2021.11.23)  
 (判明分のみ) 酒瀬川 洋児 (園S56卒) 鹿児島県茶業功労者表彰 (2021.11.28)

中村 南美子、高山 耕二

(農業生産科学科) 2021.3.28 日本畜産学会第128回大会 優秀発表賞

坂井 教郎、田代 正一、内藤 重之、伊村 達児

(農業生産科学科) 2021.8.28 食農資源経済学会学会誌賞

佐々木 優紀、藤田 清貴

(食料生命科学科) 2021.7.10 日本乳酸菌学会2021年度大会 若手発表優秀賞

Su Lai Yee Mon, Kotaro KAWABE, Shin OKAMOTO, Takeshi SHIMOGIRI

(農業生産科学科) 2021.7.30 Excellent Poster Award, 38th International Society for Animal Genetics Virtual Conference

鶴留 奈津子、南 雄二、加治屋 勝子

(食料生命科学科) 2021.8.7 第63回日本平滑筋学会総会 優秀演題賞

里 圭太、宮田 健

(食料生命科学科) 2021.9.27-25 日本農芸化学会2021年度西日本・中四国・関西支部合同大会優秀発表賞

高峯 和則、吉崎 由美子、奥津 果優

(食料生命科学科) 2021.10.1 日本醸造協会技術賞

吉崎 由美子 (食料生命科学科) 2021.10.1 日本醸造学会奨励賞

渡部 由香・樗木 直也・赤木 功

(食料生命科学科) 2021.10.29 第58回下水道研究発表会 ポスター発表部門 優秀賞

井之上 拓巳、二神 泰基、玉置 尚徳

(食料生命科学科) 2021.11.26 第38回 YEAST WORKSHOP ポスター賞

Shin-Ichiro Aiba, Yusuke Kira, Koume Araki, Fumiko Imamura, Taizo Ishinuki, Takafumi Nagata, Soichio Shimonishi, Shin Ugawa, Seiji Wakiyama, Toshihiro Yamada, Tsuyoshi Yoneda, Eizi Suzuki

(農業生産科学科) 2022.3.27 Journal of Forest Research Award 2022

## 物故者名簿

謹んで哀悼の意を表します

故人氏名	科・卒年	死亡年月日	ご遺族の住所およびご遺族名	
阿部 正昭	旧賛助会員	R.3.10.3	東京都世田谷区桜丘 2-8-30-615	令嬢 阿部奈津
堀口 毅	旧賛助会員	R.3.11.4	鹿児島市明和 1-37-3	令嬢
出来 三郎	A.S.19	H.17.12.15	鹿児島県出水市高尾野町柴引 1947-3	子息
佐藤 安一	A.S.20	R.2.8.10	香川県高松市中野町 28-25-701	
高田 勉	A.S.20	H.31.3.1	愛媛県松山市岩崎町 2-2-11	子息 浩和
知識 敬道	A.S.22	R.2.12.12	鹿児島市真砂本町 61-7-802	夫人 観世
寶満 正治	A.S.22	R.3.3.4	鹿児島市宇宿 4-12-1	子息
坂田 寿生	A.S.24	R.2.9.6	福岡県八女郡広川町水原 835-1	子息 毅彦
溝口 真	A.S.26	R.3.10.21	宮崎県都城市若葉町 55-6	子息
新須 利則	A.S.28	R.3.3.30	鹿児島県薩摩川内市五代町 1106-1	夫人
永野 道昭	A.S.28	H.30.9.4	長崎県諫早市山川町 29-10	夫人 俊子
記原 健一郎	A.S.33	R.3.6.17	鹿児島県大島郡天城町天城 611-1	
野田 政春	A.S.36	R.2.3.27	福岡市東区高美台 2-41-6	令嬢
江口 肇彦	A.S.41	H.30.1.13	福岡県糟屋郡久山町山田 818-3	子息
南 伸一	A.S.46	R.3.4.2	鹿児島県鹿屋市串良町上小原 3765	夫人 京子
四元 春夫	F.S.20	R.3.3.23	熊本市東区健軍 3-48-20-103	子息 和隆
外室 敬純	F.S.25	R.3.9.21	宮崎市生目台東 3-15-8	令嬢
有馬 純敏	F.S.28	R.1.10.7	鹿児島市武岡 4-19-12	夫人
福留 保	F.S.28	R.2.7.15	奈良県大和郡山城市城町 1814-7	夫人
野口 英昭	F.S.31	R.3.8.23	静岡県藤枝市高岡 1-1-12	
吉永 豊	F.S.31	R.3.8.19	佐賀県伊万里市立花町 1870-61	
高畑 博	F.S.33	R.2.9.29	鹿児島市大明丘 3-27-1	夫人 悦子
横井 宏	F.S.33	R.2.1.22	香川県高松市太田下町 1762-7	夫人
牛垣 徹	F.S.38	R.3.11.22	福岡県福津市光陽台 2-14-16	夫人 昌子
馬原文 雄	F.S.43	H.30.9.18	鹿児島県始良市池島町 34-11	夫人 愛子
門松 昌彦	F.S.51	R.3.5.19	北海道札幌市東区北 6 条東 4-1-1-403	夫人 範子
池上 信夫	S.S.26	R.1.11.13	佐賀県武雄市武雄町富岡 9792	子息
南 光弘	S.S.28	H.30.9.20	熊本市北区清水東町 15-27	令嬢
須藤 新一郎	S.S.34	R.2. 秋頃	福岡県筑紫野市筑紫駅前通 2-266	令嬢 岡田いづみ
川島 進	S.S.35	R.3.1.6	長崎県諫早市小川町 459-2	夫人
村尾 英丸	S.S.41	R.1. 頃	鹿児島市吉野町 2055-14	夫人
横尾 猛彦	C.S.20	H.24.4.20	愛媛県四国中央市金生町山田井 725-1	夫人
堀江 甫勇	C.S.22	R.2.8.10	神奈川県横浜市金沢区富岡西 7-43-32	夫人
古川 良英	C.S.25	R.3.2.12	鹿児島市常盤 2-7-29	子息
平川 義利	C.S.31	R.3.4.14	熊本県八代郡水川町鹿島 510-7	夫人 ミサ子
野口 純隆	C.S.33	R.3.12.23	鹿児島市桜ヶ丘 8-36-1-613	夫人 美智子
山内 広世	C.S.43	R.3.5.9	神奈川県横浜市栄区公田町 931-120	夫人
室園 利明	C.S.45	H.29.11.8	福岡県八女市蒲原 806-4	夫人
山路 幸一郎	C.S.46	R.2.6.27	大阪府豊中市桜の町 1-3-29 幸福荘 205	夫人 美子
明石 隆次	V.S.17	R.2.12.7	東京都練馬区中村南 3-13-7	子息 則雄
七條 明久	V.S.34	R.3.1.1	奈良県生駒市真弓 2-8-15	夫人
金関 憲	V.S.38	R.2.1.23	東京都国分寺市光町 3-17-1 インベリアル国立西館 501	夫人 良子
安田 哲也	V.S.38	R.2.4.	福岡市南区屋形原 4-29-1	
萬野 秀幸	V.S.39	R.1.12.10	福岡県古賀市舞の里 5-37-8	令嬢
坂本 紘	V.S.40	R.3.11.15	鹿児島市鴨池 2-9-26	夫人 郁子
水野 三男	V.S.51	R.2.12.30	静岡県浜松市東区天龍川町 992-8	
植谷 治夫	G.S.39	R.2.6.22	山口県大島郡周防大島町内入 413	
実方 紘泰	Z.S.43	R.2.12.4	鹿児島市東坂元 4-9-17	

## 本 部 便 り

### I. はじめに

令和元年（平成31年）度総会を令和元年の11月23日に開催した時には予想しませんでした。一昨年（令和2年）2月から世界的規模の「新型コロナウイルス感染症パンデミック」になり、社会の様々な行事が中止や延期を余儀なくされてきました。そのパンデミックは令和4年1月現在も収束していません。母校鹿児島大学においても令和元年度卒業式、令和2年度入学式、令和2年度卒業式、令和3年度入学式が各学部の卒業生、入学生の代表のみが出席する形に縮小して実施されました。また、教育・研究にも大きな影響があり、対面講義は大幅に縮小され、リモート（オンライン）授業が主流になり、最近では対面+リモートのハイブリッド授業方式も行われるようになってきています。

私たち鹿児島大学農学部あらた同窓会においても、令和元年度は農学部と共催で行ってきた「卒業祝賀会」を、令和2年度は「卒業祝賀会」および「学生向け講演会」を中止いたしました。今年3月の令和3年度卒業祝賀会も現在の状況では実施できそうにありません。また、毎年11月23日の旧新嘗祭の日に行ってきた「あらた同窓会総会」も令和2年度は中止にせざるを得ませんでした。

しかし、令和3年度「あらた同窓会総会」は例年の11月23日に農・獣医共通棟101号を借用して評議員会を兼ねて実施し、議題は全て承認されました。

なお、毎年2回発行している「農学部あらた同窓会報」（11月23日に発行の学生会員向け秋季号会報）と3月25日（卒業式の日）発行の一般会員向け春季号会報）および卒業生・修了生名簿については、あらた同窓会役員、学内幹事および各支部事務局のご協力で無事に発行できました。特に、「あらた同窓会報令和3年春季号」については各支部の総会が開催できなかったこともあって、会員の皆様にエッセー等のご寄稿をお願いしたところ、多くのご寄稿が寄せられ、例年より厚い会報としてお届けすることができました。この新しい取り組み「会員からのエッセー」は非常に好評ですので、今後も継続して取り組むことが学内幹事会で了承されました。エッセーご寄稿の詳細については本号表紙裏面をご覧ください。

そのような状況下で行われた「あらた同窓会」の令和2年度の活動について、以下に記載し全国のあ

らた同窓会会員にご報告申し上げます。なお、「あらた同窓会」活動にご意見がある方は事務局（裏表紙裏面に記載）にメール、電話、郵便などでご連絡いただきますようお願い申し上げます。

以上、会員の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

### II. 事業及び会計に関する報告

#### 1. 令和2年度事業および会計等に関する報告

（会計年度：令和2年10月1日～令和3年9月30日）

##### 1) 令和3年度総会（兼評議員会）

○開催日：令和3年11月23日（火）15：00～

（約1.5時間）

○場所：鹿児島大学農・獣医共通棟 101号教室

（鹿児島大学正門入り正面建物1F）

先に述べたように「新型コロナウイルス感染症」パンデミックの影響により、令和2年度は評議員会、総会ともに「書面会議」で実施いたしました。令和3年度総会（評議員会を兼ねる）は「密を避けて」鹿児島大学農・獣医共通棟 101号において開催しました。出席者は33名で、協議事項は以下のとおりでした。

- (1) 令和2年度事業報告（案）について
- (2) 令和2年度の一般会計収支決算（案）、名簿特別会計収支決算（案）および功労者表彰特別会計収支決算（案）について
- (3) 令和2年度会計監査報告について
- (4) 令和3年度事業計画（案）について
- (5) 令和3年度の一般会計収支予算（案）、名簿特別会計収支予算（案）および功労者表彰特別会計収支予算（案）について
- (6) 役員交代・改選（案）について
- (7) その他

なお、例年総会に先立って開催してきた恒例の講演会や、総会に引き続いて行っていた「懇親会」は中止しました。例年懇親会で行っている「亡師亡友の霊への黙祷」は「総会」において行いました。事務局が把握している物故者の名簿は「鹿児島大学農学部あらた同窓会報令和4年春季号」26ページに記載されていますので、ご参照ください。

##### 2) 令和3年度評議員会

先述のように、「新型コロナウイルス感染症」の予防のために、総会を兼評議員会として、議題等について審議を行いました。

##### 3) 常任幹事会及び幹事会

令和2年度の常任幹事会及び幹事会は、対面会議1回、メール会議2回の合計3回開催し、あらた同窓会報（春季号と秋季号）の編集および発行、令和3年度の評議員会並びに総会に付議する議案書等の作成について協議しました。さらに、令和3年8月6日の第3回幹事会では、「新型コロナウイルス」感染拡大により鹿児島大学の「学生の授業の方法」を含む教育・研究方針が大きく変更されている中で、8月以降の「あらた同窓会活動」について種々協議し、以下のような意見をまとめ、会長および副会長の承認を得ることにいたしました。

- (1) 学生向け講演会の開催については、昨年来学生の授業がオンライン（遠隔授業）主体であり、「密を避ける」ことが要請されていることから、昨年（令和元年）度と同様中止する。
- (2) あらた同窓会報（学生向け）令和3年秋季号（11/23発行）については、従前どおりの日程で発行する。ただし、介護体験記については体験者がいないことから掲載を中止する。また、令和3年度は長引く「新型コロナパンデミック」で学生・院生の就職活動の形態が変化し、困難になっていることを踏まえて前年（令和2年）度農学部就職委員長の寺岡行雄先生に「コロナ禍の中での就職活動」について、学生・院生には「就職活動体験記」の寄稿を依頼する。
- (3) 評議員会（例年11月上旬開催）については中止し、協議事項は「総会」で審議する。
- (4) 総会・懇親会については、「総会」は密を避けて広い会場で開催し懇親会は中止する。なお、これまで「あらた同窓会総会」と卒業祝賀会の会場であった「ジェイドガーデンパレス」が新型コロナパンデミックの影響を受けて閉鎖されたことから、新型コロナ感染症収束後の総会、懇親会場については今後の協議が必要です。

今後の常任幹事会及び幹事会については、「新型コロナウイルス」の感染状況に対応してメールおよび対面で臨機応変に行うことにいたします。

#### 4) 会計監査

令和2年度の会計監査は、令和3年10月13日（水）に下川悦郎、黒木譲二、及び菊川明の3監事によって実施され、本会の事業及び会計事務が適切に執行されている旨の監査報告書が藤田会長に提出されました。

#### 5) 会報の発行と送付数

鹿児島大学農学部あらた同窓会報は、3月25日に春季会報（全会員向け）、11月23日に秋季会報（主として学生会員向け）を発行しています。このうち、秋季会報については、学生会員、教員に加えて地域支部総会時に出席者に配布しました。令和3年春季号会報は令和3年3月25日に発行しました。頒布については、「直近5年間の会費納入者」、「80歳以上の会費免除会員」、「終身会員」、「賛助会員」及び「学生会員」並びに平成29年度評議員会および総会で承認された「可能な限り多くの会員に農学部と同窓会の近況、地域支部会やクラス会の情報など情報をお届けする」という趣旨で卒業後5年ごとの連絡先の判明している人」の総計3,624人に送付頒布しました。

令和4年春季会報については令和4年3月25日に発行します。頒布については、上記会費納入者等の会員や卒業後5（H.29卒）、10、15、20、25、30、35、40、45、50、55（S.42卒）年を経過した5年毎の連絡先が判明している人に送付・頒布します。送付にあたっては、例年通り「会費納入振込用紙」を同封します。なお、会費振込用紙を同封しない、終身会員、80歳以上の会費免除者および旧賛助会員宛には、平成28年度以降と同様に同窓会活動の活性化に役立てるための「賛助金」を募集することにします。

#### 6) あらた同窓会経理について

平成29年度から「あらた同窓会報発行」、「卒業生名簿印刷」、「会員名簿印刷」および「会報発送」事業について競争入札を導入してそれらに要する経費を節減したこと、会費納入を郵便局に加えてコンビニでも入金できるようにしたこと、平成29年度以降「春季号」の送付時に、終身会員、80歳以上の会費免除者および旧賛助会員に「賛助金」のご協力をお願いした結果、毎年多数の会員から賛助金をいただいたこと（令和3年4月8日～令和4年2月7日の賛助金および寄付者ご芳名は30ページに記載されています）等により同窓会経理はかなり改善しました。さらに、令和2年2月から「新型コロナウイルス」感染拡大により、農学部卒業祝賀会や各支部の総会のほとんどが中止になった結果、支出が減少し翌年度への繰越金が大きくなっています。今後も「あらた同窓会報発行」、「卒業生名簿印刷」、「会員名簿印刷」および「会報発送」は維持しつつ、新型コロナウイルス収束後は農学部在学生を含む多くの同窓生に向けた積極的な同窓会活動を再開していく必要があると思います。今後、学内幹事会、評議員会、総会で協議・検討し、各支部と連携・協力して活動のさらなる活性化を図っていきたいと考えております。

## 7) 名簿の発行

「あらた同窓会会員名簿」は平成30年7月に発行しました。従来、会員名簿は3～5年ごとに発行することにしていたのですが、最近では5年ごとに発行しています。次回の「あらた同窓会会員名簿」は令和5年に発行することになります。そのため、今年（令和3年）から名簿発行会社と打合せを開始しています。

## 8) 学生向け講演会

例年実施している本会と農学部共催の「学生向け講演会」については、先に記載したように「新型コロナウイルスによる鹿児島大学の遠隔授業の実施」方針等を勘案して、幹事会で協議の結果、令和3年度の実施を中止しました。今後は「新型コロナウイルス」の感染状況と鹿児島大学の授業の実施形態の変化を見ながら、可能であれば実施していきたいと思えます。

## 9) 地域支部との交流

「あらた同窓会」本部では、地域支部から役員派遣の要請を受けた場合、その支部総会に役員を派遣して本学および学部や同窓会の近況を報告するとともに、会員との交流を図ることにしていますが、令和2年4月以降の「新型コロナウイルス」感染拡大による政府の緊急事態宣言以来、各地の支部総会は軒並み中止になりました。早急な回復を祈りたいものです。

## 10) 『鹿大「進取の精神」支援基金』

平成29年度に『鹿大「進取の精神」支援基金』と

して300万円を一括寄附いたしました。300万円のうち150万円は平成28年度一般会計の剰余金から拠出し、残りの150万円については基金特別会計から一時借用しましたが、平成30年度、令和元年度、令和2年度の一般会計から50万円ずつ返還し、基金特別会計へ全額を返還し終わりました。

## 11) 鹿児島大学同窓会連合会

令和2年以降の「新型コロナウイルス」感染拡大のために令和2年度に引き続き令和3年度入学式も大幅に縮小されたために、令和3年度総会および懇親会も中止されました。同窓会連合会役員会は「令和3年度第2回役員会」が令和4年1月13日開催されましたが、他の役員会、幹事会は全てメールを利用した書面会議で開催されました。「令和3年度の事業計画（案）および予算（案）」についても書面審議で承認されています。また、幾つかの連合会としての行事も中止になったままであり、同窓会連合会を構成している「あらた同窓会」としての連携・協力も「新型コロナウイルス」収束後に持ち越しになっております。なお、毎年同窓会連合会が協力している「きばいやんせ鹿大生2021」はオンラインで開催されました。また、年2回発行の「鹿児島大学同窓会連合会報」には「あらた同窓会」としても毎号寄稿しており、印刷物は本部総会及び地域支部総会時に出席者に頒布することになっています。

## 12) その他

特にありません。



賛助金および寄付者ご芳名 (令和3年4月8日～令和4年2月7日)

学科卒年	氏名
旧賛助	青木孝良
旧賛助	岩元泉
旧賛助	小崎格
旧賛助	小島孝之
旧賛助	佐藤宗治
旧賛助	田中千秋
旧賛助	濱名克己
AS17	志気武
AS19	吉岡季雄
AS22	知識敬道
AS22	中村秀徹
AS22	春松高
AS23	野崎正寛
AS26	上ノ蘭誠
AS26	迫田行男
AS28	沢田周吉
AS28	永野道昭
AS29	井上晃一
AS30	福田力
AS31	佐竹虎雄
AS31	福山見孝
AS31	村井敏夫
AS31	和田誠男
AS32	有園勉
AS32	杉田旭
AS32	早田久雄
AS32	富岡光則
AS32	中園和年
AS32	古市吉男
AS32	松澤宜生
AS33	荒川一光
AS33	内國弘
AS33	記原健一郎
AS33	中村早苗
AS34	江崎一弘
AS34	神吉善茂
AS34	竹下勝
AS35	中西喜彦
AS35	宮本哲朗
AS36	野田政春
AS36	原田洋
AS36	藤崎満
AS36	松本浩二
AS37	青木弘光
AS37	浅田謙介
AS37	荒瀬正治
AS37	清水博之
AS37	西野敏勝
AS37	山本明人
AS38	川村史郎
AS38	中田昭一郎
AS38	三好祐二
AS39	今屋洋
AS39	堀切俊幸
AS40	橋元紘爾
AS41	永富成紀
AS41	宮本修

学科卒年	氏名
AS42	江田耕造
AS42	泊東洋和
AS42	富岡忠勝
AS44	石原宏
AS47	池端裕昭
AS48	高橋氣
AS49	佐野岩男
AS49	白坂忠昭
AS52	北野常盤
AS52	芝敏晃
AS52	平井正明
AS53	佐々木幸子
AS53	竹田泰則
AS53	三木洋二
FS22	木村義章
FS23	元野繁
FS24	紀野武夫
FS24	小幡辰雄
FS26	角太
FS26	那須袈春
FS26	安武次郎太
FS30	葉丸陽一
FS31	岩崎健生
FS31	岩本六夫
FS31	竹添隆志
FS31	濱田直章
FS31	原田俊一
FS31	松枝洋一郎
FS31	吉永豊
FS32	上野達木
FS33	高畑博
FS34	川邊恭右
FS35	落合寅夫
FS35	中山安宅
FS36	飯田知彦
FS36	本田文男
FS37	佐藤三千代
FS37	平野公一
FS38	勝善鋼
FS38	北村博巳
FS39	西田孝義
FS44	遠矢良太郎
FS46	北村良介
FH1	宮園勝美
FH3	小原誠
FH4	堀智弘
SS22	増田信己
SS24	田原富貴男
SS25	福永功
SS29	橋口勉
SS30	永田鉄山
SS32	今村俊男
SS32	狸々武徳
SS32	永峯隆
SS34	須藤新一郎
SS35	藤井行雄
SS36	大岩勝徳

学科卒年	氏名
SS37	松下三郎
SS38	渡沢博久
SS40	川原俊秀
CS22	井尻敏文
CS24	岡田信夫
CS25	榎田明
CS28	仮屋寛種
CS29	宇田川義夫
CS29	迫田太
CS30	福永隆生
CS31	平川義則
CS33	野口純隆
CS34	小川泰雄
CS34	西迫順弘
CS34	長谷場彰
CS34	藤本滋生
CS34	山下實
CS35	清藤律子
CS35	黒阪琮介
CS36	前田好美
CS37	伊地知亨
CS37	野上雅史
CS38	竹添進
CS38	波平元辰
CS38	林敏明
CS38	日高啓輔
CS40	村上暁
CS42	井川隼次
CS49	森田耕造
CS50	西澤保孝
CS55	只隅純治
CS59	宇都宮裕子
CS60	神野容子
VS22	平山慶太郎
VS22	福田昌
VS22	横田修
VS23	川畑純徳
VS25	伊藤珠子
VS26	花木常夫
VS30	三浦哲夫
VS32	米倉弘明
VS33	藤田満
VS33	堀之内達男
VS35	野間口義知
VS36	野村浩平
VS36	松元計士
VS37	大漉武徳
VS37	尾下泰彦
VS37	金堂和生
VS37	日高康貴
VS38	大村康治
VS38	金関恵
VS39	竹之内政雄
VS40	坂本紘
VS41	石黒茂
VS43	永瀬捷明
VS46	柳田興平

学科卒年	氏名
VS56	植原利志子
VS59	青木英晃
VH13	岩武香織
VH17	中島涉
VH20	片山真希
VH26	藤田祐一
GS29	堤誠
GS34	高橋毅
GS34	大六野貞雄
GS35	赤城英和
GS35	窪田孟弘
GS35	中馬越一馬
GS35	西本利治
GS35	丸山孝男
GS35	宮川良幸
GS36	高倉喜八郎
GS37	鮎川俊一
GS37	川井田修
GS37	黒木勇
GS37	野上眞八郎
GS37	米澤正喜
GS39	安藤將
GS39	植谷治夫
ZS42	屋久正文
ZS44	川添健一
ZS45	村尾実
ZS46	所崎旦
ZS47	的野英夫
ZS61	林信一
ZS62	城元清巳
ZH1	大塚國男
ES43	松田孝義
ES45	秋永邦治
ES47	井上隆
ES48	杉光三郎
ES49	中村隆
ES50	石澤一美
ES51	上林房行信
ES52	吉嶺彰二
ES53	中原拓郎
HS48	富永茂人
HS51	原耕
HS54	高原佳子
HS55	井上進
HS56	空閑宏典
HS59	中村秀人
HS60	長崎奈美
HH1	根本和恵
HH5	佐々木智康
CMS59	小路稔徳

あらた同窓会役員名簿

令和3年11月23日現在

令和2年度一般会計決算書

収入額 9,549,527円 支出額 3,681,738円 繰越金 5,867,789円

名誉会長	
顧問	橋本 文雄(賛助)
会長	藤田 晋輔(林37)
副会長	浮津 護(林38) 佐野 岩男(農49) 田中 隆義(農59) 富永 茂人(常任・園48)
監事	下川 悦郎(林44) 黒木 譲二(農47) 菊川 明(農48)
常任幹事	
庶務担当	田浦 悟(農59) 南 雄二(化59)
会計担当	末吉 武志(農工平5)
会報担当	梶木 直也(化58) 遠城 道雄(院農59) 寺本 行芳(環平7)
名簿担当	津田 勝男(農55)
広報担当	平 瑞樹(農工62)
幹事	坂井 教郎(賛助) 吉田 理一郎(賛助) 奥山 洋一郎(賛助) 大塚 彰(畜平1) 花城 勲(院農化平6) 下桐 猛(賛助) 鶴丸 博人(資平13) 一二三 達郎(獣平22)
評議員	大津 清司(農53) 南 蘭 覚(農56) 西田 和夫(農57) 溝添 俊樹(林41) 大坪 弘幸(林45) 永田 鉄山(蚕30) 大岩 勝徳(蚕36) 稲永 醇二(化42) 星野 泰啓(化58) 新納 時英(獣44) 高橋 亘(獣46) 佐々木 幸良(獣58) 中村 博大(畜43) 吉嶺 彰二(農工52) 東久保 研一(園48) 酒瀬川 洋児(園56) 東 明弘(園57) 大久保 祐司(生平6) 石橋 松二郎(資平6)
(役職指定)	各地域支部長 農学部副学部長および学科長 鹿児島支部幹事

収入の部

項目	予算額	決算額	差異	
会費	4,780,000	4,273,000	507,000	
年会費	2,600,000	2,343,000	257,000	延べ 1,172名
入会金	2,080,000	1,930,000	150,000	新正会員10名(30,000) 在校生3名(30,000) 新入生176名 (1,760,000) 卒業生11名(110,000)
懇親会費	100,000	0	100,000	新型コロナ感染拡大のため中止
賛助金	100,000	1,211,380	△1,111,380	拠出者 219名
雑収入	100	26	74	利子(26)
繰越金	4,064,751	4,064,751	0	
繰入金	2,000	370	1,630	基金利子
合計	8,946,851	9,549,527	△602,676	

支出の部

項目	予算額	決算額	差異	
会議費	150,000	18,791	131,209	
総会費	0	0	0	
役員会費	150,000	18,791	131,209	幹事会、会計監査
事業費	1,970,000	1,255,962	714,038	
印刷費	500,000	351,813	148,187	学生向け会報(108,900) 春季号会報(242,913)
卒業祝賀会費	300,000	0	300,000	新型コロナ感染拡大のため中止
支部交付金	200,000	178,000	22,000	広島(2,400) 佐賀(4,800) 熊本(10,400) 鹿児島(160,400)
旅費	200,000	37,320	162,680	佐賀(37,320)
通信運搬費	700,000	638,829	61,171	会報送料(460,340) 振込手数料等(178,489)
講演会費	20,000	0	20,000	新型コロナ感染拡大のため中止
功労者表彰積立金	50,000	50,000	0	令和6年度実施予定
事務局費	1,960,000	1,491,985	468,015	
役員報酬	520,000	520,000	0	常任副会長(360,000) 幹事(160,000)
賃金	800,000	679,200	120,800	給料
備品費	160,000	0	160,000	
消耗品費	60,000	17,615	42,385	事務用品等
光熱水費	100,000	60,540	39,460	電気(53,947) 上下水道(6,593)
通信運搬費	200,000	157,540	42,460	インターネット接続料(23,540) 電話(73,327) サーバー使用料(11,088) ハガキ・切手(47,019) 送料等(2,566)
賃借料	60,000	57,090	2,910	建物使用料 (R.3.41~R.4.3.31分)
慶弔費	60,000	0	60,000	
会館修繕費	0	0	0	
同窓会連合会分担金	100,000	100,000	0	
雑費	200,000	15,000	185,000	寸志(5,000) その他(10,000)
繰出金	800,000	800,000	0	
名簿特別会計へ	300,000	300,000	0	名簿特別会計へ
基金特別会計へ	500,000	500,000	0	基金特別会計へ 注1)
予備費	3,766,851	0	3,766,851	
合計	8,946,851	3,681,738	5,265,113	

注1) 基金特別会計から借用した1,500,000円は、年次計画で返却することとした。平成30年度・令和元年度・令和2年度にそれぞれ500,000円を返却して、基金特別会計へ全額を返却し終わった。

令和2年度 同窓会名簿特別会計決算書

収入額 2,368,575円 支出額 24,200円 繰越金 2,344,375円

収入の部

項目	予算額	決算額	差異	
名簿代	0	0	0	
雑収入	50	16	34	利子
繰越金	2,068,559	2,068,559	0	
繰入金	300,000	300,000	0	一般会計より
合計	2,368,609	2,368,575	34	

支出の部

項目	予算額	決算額	差異	
名簿作成費	50,000	24,200	25,800	
名簿購入費	0	0	0	
印刷費	50,000	24,200	25,800	卒業生名簿 500部
通信運搬費	5,000	0	5,000	
予備費	2,313,609	0	2,313,609	
合計	2,368,609	24,200	2,344,409	

令和2年度 功労者表彰特別会計決算書

収入額 184,359円 支出額 0円 繰越金 184,359円

収入の部

項目	予算額	決算額	差異	
繰越金	134,359	134,359	0	
繰入金	50,000	50,000	0	令和2年度積立金
雑収入	20	0	20	利子
合計	184,379	184,359	20	

支出の部

項目	予算額	決算額	差異	
祝賀会費	0	0	0	
記念品費	0	0	0	
雑費	0	0	0	
予備費	184,379	0	184,379	
合計	184,379	0	184,379	

あらた同窓会資産表

令和3年9月末日現在

基金特別会計			
定期預金	鹿児島銀行	10,000,000円	
定期預金	南日本銀行	3,000,000円	
普通預金	鹿児島銀行	601,558円	
合計		13,601,558円	
一般会計			
普通貯金	郵便局	5,867,789円	
名簿特別会計			
普通貯金	郵便局	2,344,375円	
功労者表彰特別会計			
普通貯金	南日本銀行	184,359円	
総計		21,998,081円	

監査報告書

あらた同窓会令和2年度事業実績並びに会計について監査しましたが、諸帳簿、証拠書類、預金通帳等はよく整理され、事業運営並びに会計事務は適切に処理されているものと認めます。

令和3年10月13日

あらた同窓会

監事 下川悦郎 

監事 黒下譲二 

監事 菊川明 

あらた同窓会

会長 藤田晋輔 殿

令和3年度 一般会計予算書

収入額 10,749,889円 支出額 10,749,889円

収入の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差異	
会費	4,780,000	4,273,000	507,000	
年会費	2,600,000	2,343,000	257,000	延べ1,300名
入会金	2,080,000	1,930,000	150,000	新入生 10,000円×(205名) 新正会員 3,000円×(10名)
懇親会費	100,000	0	100,000	同窓会連合会懇親会費
賛助金	100,000	1,211,380	△1,111,380	賛助金
雑収入	100	26	74	利子等
繰越金	5,867,789	4,064,751	1,803,038	
繰入金	2,000	370	1,630	基金利子
合計	10,749,889	9,549,527	1,200,362	

支出の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差異	
会議費	170,000	18,791	151,209	
総会費	20,000	0	20,000	会場費等
役員会費	150,000	18,791	131,209	幹事会、会計監査
事業費	1,970,000	1,255,962	714,038	
印刷費	500,000	351,813	148,187	会報(秋季号、春季号)
卒業祝賀会費	300,000	0	300,000	
支部交付金	200,000	178,000	22,000	各支部へ
旅費	200,000	37,320	162,680	支部総会出席等
通信運搬費	700,000	638,829	61,171	会報送料、振込手数料等
講演会費	20,000	0	20,000	講師謝礼等
功労者表彰 積立金	50,000	50,000	0	令和6年度実施予定
事務局費	1,960,000	1,491,985	468,015	
役員報酬	520,000	520,000	0	常任副会長・幹事
賃金	800,000	679,200	120,800	給料等
備品費	160,000	0	160,000	
消耗品費	60,000	17,615	42,385	事務用品等
光熱水費	100,000	60,540	39,460	電気、上下水道等
通信運搬費	200,000	157,540	42,460	インターネット接続料、 切手・ハガキ等
賃借料	60,000	57,090	2,910	会館建物使用料
慶弔費	60,000	0	60,000	祝電、弔電等
会館修繕費	0	0	0	
同窓会連合会分担金	100,000	100,000	0	
雑費	200,000	15,000	185,000	
繰出金	300,000	800,000	△500,000	
名簿特別会計へ	300,000	300,000	0	名簿特別会計へ
基金特別会計へ	0	500,000	△500,000	
予備費	6,049,889	0	6,049,889	
合計	10,749,889	3,681,738	7,068,151	

令和3年度 同窓会名簿特別会計予算書

収入額 2,644,425円 支出額 2,644,425円

収入の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差異	
名簿代	0	0	0	
雑収入	50	16	34	利子
繰越金	2,344,375	2,068,559	275,816	
繰入金	300,000	300,000	0	一般会計より
合計	2,644,425	2,368,575	275,850	

支出の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差異	
名簿作成費	50,000	24,200	25,800	
名簿購入費	0	0	0	
印刷費	50,000	24,200	25,800	卒業生名簿 500部
通信運搬費	5,000	0	5,000	
予備費	2,589,425	0	2,589,425	
合計	2,644,425	24,200	2,620,225	

令和3年度 功労者表彰特別会計予算書

収入額 234,379円 支出額 234,379円

収入の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差異	
繰越金	184,359	134,359	50,000	
繰入金	50,000	50,000	0	令和3年度積立金
雑収入	20	0	20	利子
合計	234,379	184,359	50,020	

支出の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差異	
祝賀会費	0	0	0	
記念品費	0	0	0	
雑費	0	0	0	
予備費	234,379	0	234,379	
合計	234,379	0	234,379	

## 鹿児島大学農学部あらた同窓会会則

## 第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、鹿児島大学農学部あらた同窓会（通称：あらた同窓会）と称する。

(目的)

第2条 本会は、会員相互の交流と親睦を図るとともに、農学部への発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために次に掲げる事業を行う。

- (1) 会報及び会員名簿の発行
- (2) 農学部との連携及び協力
- (3) その他必要と認められた事項

(支部)

第4条 本会は、支部を必要な地に置くことができる。

## 第2章 会員

(会員)

第5条 本会は、次に掲げる正会員、学生会員及び賛助会員をもって組織する。

正会員

- 鹿児島高等農林学校卒業生
- 鹿児島農林専門学校卒業生
- 鹿児島大学農学部卒業生
- 鹿児島大学大学院農学研究科並びに大学院農林水産学研究科（農水産獣医学域農学系分野で教育・研究指導を受けた）修了者

学生会員

- 農学部及び大学院農学研究科並びに大学院農林水産学研究科（農水産獣医学域農学系分野で教育・研究指導を受ける）に在籍する学生

賛助会員

- 現賛助会員（現職教員）
- 旧賛助会員（退職教員）

2 会員は、住所等に異動が生じた場合、その都度事務局に連絡するものとする。

## 第3章 役員等

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 常任副会長 1名
- (3) 副会長 3名
- (4) 評議員 若干名
- (5) 監事 3名
- (6) 常任幹事及び幹事 若干名
- (7) その他会長が認められた者

(役員を選任)

第7条 会長、常任副会長、副会長、評議員及び監事は、総会において選任する。

2 評議員は、各地域支部支部長、農学部副学部長、農学部各学科長及び幹事会が推薦した者、並びに鹿児島支部幹事をもってこの任に当てる。

3 幹事は、農学部のコース等から推薦された者をもってこの任に当て、その中から庶務、会計、会報および名簿担当の常任幹事を互選する。

(役員に任務)

第8条 会長は本会を代表して会務を総理する。

2 常任副会長は会務の執行を総括し、事務局を統括する。

3 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。

4 評議員は、総会及び評議員会の構成員として、会務の執行上重要な事項を審議する。

5 監事は、事業実績並びに会計の執行状況の監査を行い、その結果を総会に報告する。

6 常任幹事及び幹事は、幹事会の構成員として、本会の事業の企画・立案及び実施等に関する事項について協議を行う。

(役員に任期)

第9条 総会で選任された役員に任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、役員に欠員を生じた場合の補欠の任期は前任者の残任期間とする。

(名誉会長及び顧問)

第10条 本会に名誉会長及び顧問を置くことができる。

2 名誉会長は会長が委嘱する。

3 農学部長は本会の顧問とする。

4 名誉会長及び顧問は、会議に出席し、意見を述べることができる。

## 第4章 会議

(会議)

第11条 本会の会議は、総会、評議員会及び幹事会とする。

(総会)

第12条 総会は、第5条第1項及び第10条に掲げる者をもって組織する。

2 総会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 役員を選任に関する事項
- (2) 事業計画及び事業報告に関する事項
- (3) 予算及び決算に関する事項
- (4) 会則の改廃に関する事項
- (5) その他会長が必要と認められた事項

3 総会は、会計年度開始から2ヶ月内に会長が招集する。

4 総会の議長は出席者の中から選出する。

5 議事は出席者の過半数で決するが、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(臨時総会)

第13条 臨時総会は、会長が必要と認める場合に開催できる。

2 臨時総会の議長は選出並びに議決は前条の規定によるものとする。

(評議員会)

第14条 評議員会は、会長、常任副会長、副会長、評議員及び監事をもって組織する。

2 評議員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 本会の運営における重要な業務の執行に関する事項

(幹事会)

第15条 幹事会は、常任副会長、常任幹事及び幹事をもって組織する。

2 幹事会は、次に掲げる事項を協議する。

- (1) 総会及び評議員会に付議する議案書の作成
- (2) 本会が行う業務の具体的執行計画等

## 第5章 会計

(経費)

第16条 本会の経費は、正会員及び現賛助会員の会費、学生会員の入会金及び会費、寄付金等をもって充てる。

2 正会員及び現賛助会員は、年会費として2,000円を納付する。

3 学生会員は、入会金及び在学中の会費として、入学時に、10,000円を納付する。

4 年齢が満80歳に達した会員は会費納付を免除する。

(会計年度)

第17条 本会の会計年度は、10月1日から翌年9月30日までとする。

(監査)

第18条 監査は、会計年度ごとに行う。

## 第6章 事務局等

第19条 本会の事務を処理するために事務局を置く。

2 事務局は鹿児島大学農学部あらた会館内に置く。

(雑則)

第20条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

## 附則

本会則は、昭和28年12月12日より施行する。

本会則は、昭和53年11月23日より改訂施行する。

本会則は、昭和60年11月23日より改訂施行する。

本会則は、昭和61年11月23日より改訂施行する。

本会則は、昭和62年11月23日より改訂施行する。

本会則は、平成12年11月23日より改訂施行する。

本会則は、平成23年11月23日より改訂施行する。

## 覚書

1 過去に終身会費を納付した終身会員は年会費の納付を免除する。

2 あらた同窓会功労者表彰は、2009年を起点として、5年毎に行う。

## 編集後記

先日（1月下旬）農学部の某先生のところへ行くと、実験室の引っ越し準備の真っ最中でした。卒論や修論の追い込みで最も忙しい時期ですから、どうして実験室の引っ越しなどされているのか、事情をお聞きしたところ、学部共通スペースとして借りていた実験室が全学共通スペースとなり、使用料が年に40万円ほどにもなったために、借り続けるのを断念したということでした。事務に聞いたところ学部共通スペースでは1,800円/m<sup>2</sup>だったスペースチャージが、全学共通スペースでは5,000円/m<sup>2</sup>と3倍近くに値上がりしたそうです。

一方うちの研究室では全学の研究支援センター機器分析施設で液体クロマトグラフ質量分析装置（液マス）を使用しているのですが、使用料は1時間あたり1,200円です。液マスですから安定化の時間や分析間隔も取らなければならず、試料の分析を思い立つと1回10,000円程度はかかります。またうちの研究室は学部共通機器のICP質量分析装置（ICPマス）の管理を担当しているのですがこちらも受益者負担で、昨年度より30分あたり700円の使用料を取るようになりました。

（勿論うちの研究室も払っています。）使用するアルゴンガス代を含めると1時間で2,000円くらいになります。

研究にはお金がかかるのは当たり前ですが、最近はそのに拍車がかかってきたようです。校費は雀の涙で、研究費を稼げないのが悪いと言われればそれまでですが、どうも「すぐお金が稼げる研究」が推進されているような気がして、大丈夫でしょうか。

（文責 あらた同窓会常任幹事 樗木直也）

### 鹿児島大学農学部 あらた同窓会

〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目2-24  
TEL・FAX 099(285)8537  
e-mail(aratakai@mc2.seikyuu.ne.jp)  
振替口座 02010-2-876  
事務局の業務日 月・水・金(10:00~16:00)

印刷所 株式会社鹿児島新生社印刷  
住所 鹿児島市七ツ島1-3-21  
TEL 099-261-0111  
FAX 099-261-3100  
E-mail kagoshima@shinsei-p.co.jp



「かごしま健康の森公園」から見た桜島と朝焼け（福井泰好氏提供）



「宇治群島のアカボシルリゴキブリ幼虫(左)、成虫(右)

2021年に農学部・坂巻准教授らのグループによって新種記載されたゴキブリ。宇治群島から徳之島までの島嶼部に分布する鹿児島県固有種。成虫の背中は青緑の金属光沢をもち、背中の中央部に3点のオレンジ色の斑点があることが特徴」（坂巻祥孝先生提供）